

令和6年度
和歌山リハビリテーション専門職大学
シラバス
(実務家教員担当科目)

健康科学部
リハビリテーション学科
理学療法学専攻 作業療法学専攻

理学療法概論

講師名 松永 秀俊 (実務経験者)

学年 1 年 学期 前期 時間 30 時間 必修 1 単位

講義目標

授業目標は、理学療法の対象、目的、役割などの理解を深め、理学療法の目指すものを正しく理解することである。また、作業療法実施過程や理論を知り、各領域の作業療法を理解することである。授業内容として、作業療法の定義や理念、作業療法の捉えている理学療法とは何か、対象や働く場所、人の健康の捉え方(ICF)、社会状況や法・制度、他職種連携について学習する。

授業計画

- 第1回 理学療法概論とは 理学療法の歴史
 - 第2回 理学療法士及び作業療法士法
 - 第3回 国家試験について
 - 第4回 理学療法士の職域
 - 第5回 希望する理学療法士の職域についてディスカッション
 - 第6回 希望する理学療法士の職域についてまとめ
 - 第7回 希望する理学療法士の職域について発表
 - 第8回 理学療法士との関連職種
 - 第9回 理学療法の関連教科①(解剖学、生理学、運動学等)
 - 第10回 理学療法の関連教科②(神経内科学、整形外科学等)
 - 第11回 理学療法士に求められるもの 理学療法教育 理学療法研究
 - 第12回 理学療法の流れ
 - 第13回 ICDとICIDH
 - 第14回 ICF
 - 第15回 感染症対策 医療事故 対象疾患
-

履修上の注意

講義には出席することが必須であり、欠席、遅刻には注意すること。
内容は理学療法とは何かを知る講義である。
理学療法士になる為の入り口となるので予習、復習を怠らないこと。

成績評価

主に定期試験と課題の発表にて判断する。

テキスト

理学療法概論 庄本康治 羊土社

参考図書、その他

講義の進行に合わせ資料を配布する。

講義型授業、問答型授業、対話型授業の混合

基礎理学療法学Ⅰ

講師名 松永 秀俊 (実務経験者)

学年 1 年 学期 前期 時間 30 時間 必修 1 単位

講義目標

授業目標は、理学療法の歴史や、理学療法士の活動と役割を理解すること理学療法における基礎的な構成要素を理解できることとする。授業内容は歴史を通し、現在のあるべき理学療法像の言及すべく分析を行ない、レポートにて考察することで理解を含めていく。

授業計画

- 第1回 1章 理学療法総論
 - I. 理学療法の位置づけ
 - 1. 理学療法を構成する3つの柱
 - 2. 理学療法の歴史と理念
 - 3. チーム医療と関連職種
 - 第2回
 - 第3回 II. 理学療法関連法規と諸制度
 - 1. 理学療法関連法規
 - 2. 職能団体としての役割
 - 第4回 III. 理学療法士に求められる職業倫理と職場管理
 - 1. 「倫理規定」と「理学療法士の職業倫理ガイドライン」
 - 第5回 2章 臨床、研究、教育における理学療法
 - I. 臨床理学療法
 - 1. 臨床理学療法の過程
 - 2. 臨床理学療法の体系
 - 第6回 II. 理学療法研究
 - 1. 研究領域
 - 2. 研究方法
 - 第7回 III. 理学療法教育
 - 1. 教育課程の歴史的変遷
 - 第8回 3章 人間の運動・動作のメカニズム
 - I. 生体の形と動きを表現する
 - 1. 筋、骨の位置・形（体表検索の順序など）
 - 2. 筋、骨の位置・形（上前腸骨棘、上後腸骨棘、縫工筋など）
 - 3. 筋、骨の位置・形（大腿直筋、大腿筋膜張筋、腸脛靭帯など）
 - 4. 筋、骨の位置・形（大腿骨外側上顆、膝裂隙など）
 - 5. 筋、骨の位置・形（ヒラメ筋、長腓骨筋など）
 - 6. 筋、骨の位置・形（肩峰、僧帽筋など）
 - 7. 筋、骨の位置・形（棘上筋、肩甲下筋など）
 - 8. 筋、骨の位置・形（上腕二頭筋、腕橈骨筋など）
 - 第9回
 - 第10回
 - 第11回
 - 第12回
 - 第13回
 - 第14回
 - 第15回
-

履修上の注意

講義には出席することが必須であり、欠席、遅刻には注意すること。
内容は理学療法士として知っておくべきもので、今後、必要となる知識である。

成績評価

定期試験または小テストまたはレポートにて判断する。

テキスト

基礎理学療法学 大橋ゆかり 医歯薬出版

参考図書. その他

講義の進行に合わせ資料を配布する。

講義型授業、問答型授業、対話型授業、実習の混合

基礎理学療法学Ⅱ

講師名 松井 有史 (実務経験者)

学年 1 年 学期 後 期 時間 30 時間 必修 1 単位

講義目標

1. 生体の動きと力学を理解する
 2. 筋力、筋持久力を理解する
 3. 動作分析の基礎を学び、理学療法学の基礎を構築する
 4. 運動障害のメカニズムを知る
-

授業計画

- 第1回 ガイダンス 基礎理学療法学Ⅱで学ぶこと 関節運動の復習 講義室
- 第2回 骨指標の確認 【治療室使用】
- 第3回 人体の重心 関節モーメント てこの原理について
- 第4回 筋力について
- 第5回 筋持久力について
- 第6回 床反力について
- 第7回 人間の姿勢について
- 第8回 歩行について（歩行周期）
- 第9回 歩行について（筋力発揮）
- 第10回 歩行について（模型を作って理解する） 【基礎医学教室】
- 第11回 基本動作の理解（寝返り） 【治療室使用】
- 第12回 基本動作の理解（起き上がり） 【治療室使用】
- 第13回 基本動作の理解（立ち上がり） 【治療室使用】
- 第14回 代表的な機能障害について（疼痛・関節可動域障害・筋力低下）
- 第15回 創傷、靭帯損傷治癒のメカニズム・筋細胞の壊死と再生のメカニズム
-

履修上の注意

理学療法士の基礎となる学問である。単元ごとの授業ではあるが、点と点で捉えるのではなく、一つの線として学び進めていただきたい。

成績評価

期末試験にて評価を行う

テキスト

ビジュアルレクチャー基礎理学療法学、大橋ゆかり編、医歯薬出版、2800円＋税

参考図書、その他

動作分析臨床活用講座バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践、石井慎一郎他、メディカルビュー、5600円＋税

主に講義形式（第2回、第10～13回は演習）

理学療法研究論

講師名 松永 秀俊 (実務経験者)

学年 2 年 学期 後 期 時間 30 時間 必修 1 単位

講義目標

近年の医療界の潮流として科学的根拠に基づく理学療法の実践が重要視され、保険算定の中でも世界的に根拠のない治療は算定外となったり減算となったりしてきている。本講義では理学療法の科学的検証を行うことを目標とし、研究の総論に始まり研究計画の立案から統計学的分析手法の選択、研究の実施、論文の書き方までを実践することで学修する。

授業計画

- 第1回 研究の必要性
 - 第2回 研究計画段階（課題の発見、実行の可能性、必要な研究か、他）
 - 第3回 研究計画書作成①（タイトル、序論）
 - 第4回 研究計画書作成②（背景、目的）
 - 第5回 研究計画書作成③（研究デザイン、仮説）
 - 第6回 研究計画書作成④（対象、方法、倫理面、参考文献）
 - 第7回 同意書取得
 - 第8回 同意書作成①（タイトル、研究目的、研究方法）
 - 第9回 同意書作成②（参加の任意性と同意撤回の自由、守秘義務、他）
 - 第10回 研究実施段階（データ収集、データ整理） 研究結果の公表（学術雑誌、書籍、他）
 - 第11回 学術論文作成①（タイトル、抄録、キーワード、序論、対象、方法）
 - 第12回 学術論文作成②（結果、考察、結論、参考文献、投稿規定）
 - 第13回 学会発表の方法①（口述発表の方法）
 - 第14回 学会発表の方法②（口述発表にて試験、ポスター発表の方法）
 - 第15回 まとめ（観察研究、実験的介入研究、臨床的介入研究、症例研究、メタアナリシス）
-

履修上の注意

講義には出席することが必須であり、欠席、遅刻には注意すること。内容は進学、就職後、自らを次の段階に引き上げるため必要なもの。グループワークが多く、座学は少ない。

成績評価

定期試験と口述発表にて判断する。

テキスト

はじめての研究法 千住秀明 神陵文庫

参考図書、その他

講義の進行に合わせ資料を配布する。

講義型授業、対話型授業の混合

臨床理学療法学

講師名 吉崎 邦夫 (実務経験者)

学年 3 年 学期 後 期 時間 30 時間 必修 1 単位

講義目標 理学療法を遂行するには臨床推論を行い、それに基づいて理学療法をおこなっていることを理解することを目標とする。

授業計画

- 第1回 障害概論
- 第2回 医学的リハにおける障害評価とその手順
- 第3回 痛みのとらえ方
- 第4回 痛みのとらえ方（臨床推論：クリニカルリーズニング）
- 第5回 有痛性疾患のケーススタディⅠ（肩関節）演習：症例理解
- 第6回 有痛性疾患のケーススタディⅠ（肩関節）演習：課題解決
- 第7回 有痛性疾患のケーススタディⅡ（肩関節）演習：症例理解
- 第8回 有痛性疾患のケーススタディⅡ（肩関節）演習：課題解決
- 第9回 有痛性疾患のケーススタディⅢ（腰部）演習：症例理解
- 第10回 有痛性疾患のケーススタディⅢ（腰部）演習：課題解決
- 第11回 有痛性疾患のケーススタディⅣ（腰部）演習：症例理解
- 第12回 有痛性疾患のケーススタディⅣ（腰部）演習：課題解決
- 第13回 有痛性疾患のケーススタディⅤ（下肢）演習：症例理解
- 第14回 有痛性疾患のケーススタディⅤ（下肢）演習：課題解決
- 第15回 ケーススタディの総括

履修上の注意 グループ分けの場合、積極かつ協力して症例の理解、課題解決にあたるのがよいと言えます。

成績評価 授業態度（20%）、レポート（20%）、定期試験（60%）で判断する。

テキスト

参考図書、その他

痛み学 - 臨床のためのテキスト - 熊澤孝朗訳、名古屋大学出版会、基本編・ケースで学ぶ理学療法臨床施行 第2版
文光堂
講義と演習

理学療法臨床診断学

講師名 吉崎 邦夫 (実務経験者)

学年 3 年 学期 前期 時間 30 時間 必修 1 単位

講義目標 理学療法評価から得られたいくつかの結果を元に統合と解釈を行い目標とゴール設定、治療プログラムを計画する一連のプロセスを習得し、症例報告が書けるようになる。

授業計画

- 第1回 理学療法プログラムの立案に向けて
- 第2回 臨床推論から症例報告の書き方までの流れ
- 第3回 1 脳卒中 症例紹介、事前準備
- 第4回 目標を抽出する
- 第5回 動作障害に対して仮説を立てる
- 第6回 問題点を抽出し優先順位を決る
- 第7回 治療プログラムを立案しよう
- 第8回 効果判定を行う
- 第9回 2 変形性股関節症（人工股関節全置換術：THA後）症例紹介、事前準備
- 第10回 目標を抽出する
- 第11回 動作障害に対して仮説を立てる
- 第12回 問題点を抽出し優先順位を決る
- 第13回 治療プログラムを立案しよう
- 第14回 効果判定を行う
- 第15回 症例報告の書き方 まとめ

履修上の注意 理学療法評価から治療そして効果判定にいたるプロセスを症例を通して学び、実際の理学療法を机上で体験する機会である。その一連の流れは最終的に症例報告が書けるようになること身につけることができる。

成績評価 課題提出（50%）とレポート（50%）で総合評価する。

テキスト

6ステップで組み立てる理学療法臨床実習ガイド
木村大輔 編集 医学書院 3,960円（税込）

参考図書、その他

問題解決モデルで見える理学療法臨床思考 加藤研太郎・
有馬慶美 編集 文光堂

講義と演習

理学療法評価学総論Ⅰ

講師名 吉崎 邦夫 (実務経験者)

学年 1 年 学期 後 期 時間 30 時間 必修 1 単位

講義目標 理学療法評価の意義と目的を理解し指定した検査方法について実施できる

授業計画

- 第1回 科目の説明 患者をみる前に (理学療法士の役割)
- 第2回 理学療法評価の準備
- 第3回 Step1 情報収集
- 第4回 Step2 面接 (問診と観察)
- 第5回 Step3 理学療法基本評価 ① バイタルサイン
- 第6回 ② 痛みやしびれ
- 第7回 ③ 形態測定 1
- 第8回 形態測定 2
- 第9回 ④ 関節可動域 1
- 第10回 関節可動域 2
- 第11回 関節可動域 3
- 第12回 ⑤ 筋力 1
- 第13回 筋力 2
- 第14回 筋力 3
- 第15回 筋力 4

履修上の注意 予習復習をしっかりと行い授業を受ける。解説だけでなく実技を行うので必ず出席するように体調・生活管理する。節目ごとテストを行い、その結果も総合点に含まれるので、教科書や資料を調べなくても実施できるようになるまで練習する。
実技実習の時は、実習服または四肢の露出しやすい服装で授業に臨むこと。

成績評価 実技試験(40%)、定期試験(60%)で総合評価する。
実技練習への取り組み方が消極的な場合はその都度警告の上、総合点から減点する。

テキスト

Crosslin 理学療法テキスト 理学療法評価学 中山 恭秀
編 メジカルビュー社 5,500円 (本体5,000円+税)
新・徒手筋力測定法 原著第10版 [Web動画付] Dale
Avers/Marybeth Brown 著 津山直一/中村耕三 訳協同
医書出版社 8,580円 (本体7,800円+税)

参考図書、その他

運動器疾患の「なぜ？」わかる臨床解剖学 医学書院
理学療法評価学 文光堂
標準 理学療法評価学 第3版 医学書院
筋・機能とテスト—姿勢と痛み 西村書店

講義と実技

理学療法評価学総論Ⅱ

講師名 吉崎 邦夫 (実務経験者)

学年 2 年 学期 前期 時間 30 時間 必修 1 単位

講義目標 理学療法評価の意義と目的を理解し指定した検査方法について実施できる。

授業計画

第1回 科目の説明 理学療法評価の意義と目的（再確認）

第2回 Step3 理学療法基本評価 ⑥ 感覚検査

第3回 ⑦ バランス

第4回 ⑧ 動作

第5回 ⑨ 姿勢

第6回 ⑩ 歩行

第7回 ⑪ 歩行の耐久性

第8回 ⑫ 日常生活活動（動作）

第9回 Step4 疾患特異的機能評価 2 反射・筋緊張異常

第10回 3 分離運動

第11回 4 脳神経検査

第12回 5 高次脳機能、脊髄支配・電気生理学的検査

第13回 Step5 疾患特異的重症度評価

第14回 Step6 患者が思う病気と生活の関係：QOLの評価

第15回 理学療法評価学のまとめ

履修上の注意 解説のみではなく実技を行うので必ず出席するように体調・生活管理する。節目に課題を課しその結果も総合点に含むので、教科書や資料を調べなくても実施できるようになるまで練習する。実技があるので実習服または、四肢の露出しやすい服装で授業に臨むこと。

成績評価 課題(40%)、定期試験(60%)で総合評価する。
実技練習への取り組み方が消極的な場合はその都度警告の上、総合点から減点する。

テキスト

Crosslin 理学療法テキスト 理学療法評価学 中山
恭秀 編 メジカルビュー社 5,500円（本体
5,000円+税）

参考図書、その他

理学療法評価学 文光堂
ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版 南山堂

講義と実技練習

身体機能評価学実習Ⅰ

講師名 松永 秀俊 (実務経験者)

学年 2 年 学期 前期 時間 30 時間 必修 1 単位

講義目標

授業目標は、身体運動について、重力や加速度、モーメントやこの原理など力学的に理解し、基本動作（寝返り、起き上がり、立ち上がり、立位、歩行）の分析に利用できる重心動揺計、ビデオカメラや筋電図装置など各種の計測機器とその測定方法について使用例を提示し、客観的な動作観察・分析の方法について学ぶ。

授業計画

- 第1回 ～総論～ 動作分析と運動分析
 - 第2回 動作分析に対する考え方（トップダウンとボトムアップ）
 - 第3回 動作分析の進め方
 - 第4回 ～各論～ 1. 基本動作 1. 寝返り①（パターン）
 - 第5回 寝返り③（目視）
 - 第6回 重心動揺計①
 - 第7回 2. 起き上がり動作①（パターン）
 - 第8回 起き上がり動作③（目視）
 - 第9回 3. 起立・着座動作①（パターン）
 - 第10回 起立・着座動作③（目視）
 - 第11回 4. 歩行①（パターン）
 - 第12回 歩行③（目視）
 - 第13回 フィールドワーク①（健常者の歩行分析）
 - 第14回 フィールドワーク③（健常者の動作分析）
 - 第15回 三次元動作解析装置①
-

履修上の注意

身体機能評価学実習はⅠとⅡに分かれているが、講義の進行上、まとめて実施する。それに伴って試験もまとめて実施する。内容は実習が多く、フィールドワークを実施予定。

成績評価

主に定期試験と課題発表にて判断する。

テキスト

動作分析 臨床活用講座 石井慎一郎 MEDICAL VIEW

参考図書、その他

講義の進行に合わせ資料を配布する。

講義型授業、問答型授業、対話型授業、実習の混合

身体機能評価学実習Ⅱ

講師名 松永 秀俊 (実務経験者)

学年 2 年 学期 前期 時間 30 時間 必修 1 単位

講義目標

授業目標は、基本動作（寝返り、起き上がり、立ち上がり、立位、歩行）の各動作において、理解を深める。授業内容は、正常の寝返り、起き上がり、立ち上がり、立位、歩行の観察、姿勢・動作・行為の観察視点と分析などについて学習する。三次元動作解析装置を用いた動作分析を学ぶ。

授業計画

- 第1回 動作分析を行う理由
 - 第2回 動作分析（位置付け、場面、目的）
 - 第3回 逸脱運動と代償運動
 - 第4回 寝返り②（メカニズム）
 - 第5回 寝返り④（疾患別の寝返り）
 - 第6回 重心動揺計②
 - 第7回 起き上がり動作②（メカニズム）
 - 第8回 起き上がり動作④（疾患別の起き上がり）
 - 第9回 起立・着座動作②（メカニズム）
 - 第10回 起立・着座動作④（疾患別）
 - 第11回 歩行②（メカニズム）
 - 第12回 歩行④（疾患別） II. まとめ
 - 第13回 フィールドワーク②（歩行分析結果の発表）
 - 第14回 フィールドワーク④（動作分析結果の発表）
 - 第15回 三次元動作解析装置②
-

履修上の注意

身体機能評価学実習はⅠとⅡに分かれているが、講義の進行上、まとめて実施する。それに伴って試験もまとめて実施する。内容は実習が多く、フィールドワークを実施予定。

成績評価

主に定期試験にて判断する。

テキスト

動作分析 臨床活用講座 石井慎一郎 MEDICAL VIEW

参考図書、その他

講義の進行に合わせ資料を配布する

主に定期試験にて判断する。

理学療法評価学実習Ⅰ

講師名 松井 有史 (実務経験者)

学年 2 年 学期 後 期 時間 30 時間 必修 1 単位

講義目標

1. 中枢神経系障害の理学療法評価を列挙することができる
2. 中枢神経系障害の理学療法評価を健常者間で実施することができる
3. 中枢神経系障害の動作を分析を理解することができる
4. OCSE（中枢神経系障害分野）の内容を実施することができる

授業計画

第1回 中枢神経系の機能と構造、脳血管障害の病態（CT、MRIを中心に）：講義

第2回 評価の手順について、動作分析からみた評価の実際：実技

第3回 脳血管障害に関する基礎的評価1（ROM）上肢：実技

第4回 脳血管障害に関する基礎的評価2（ROM）下肢：実技

第5回 脳血管障害に関する基礎的評価3（MMT）上肢：実技

第6回 脳血管障害に関する基礎的評価4（MMT）下肢：実技

第7回 脳血管障害に関する基礎的評価5まとめ：実技

第8回 理学療法臨床評価プランニングについて

第9回 脳卒中片麻痺患者の評価①：講義、実技
意識障害・脳神経・感覚障害

第10回 脳卒中片麻痺患者の評価②：講義、実技
筋緊張検査

第11回 脳卒中片麻痺患者の評価③：講義、実技
Brs・十二段階片麻痺機能検査

第12回 脳卒中片麻痺患者の評価④：講義
総合評価法 FMA

第13回 脳卒中片麻痺患者の評価⑤：講義
総合評価法 SIAS

第14回 脳卒中片麻痺患者の評価⑥：講義
総合評価法 NIHSS、JSS、その他

第15回 OCSE（中枢神経系障害分野）について

履修上の注意

実技(12回以降)を行う際には動きやすい服装で臨むこと

成績評価

定期試験（60点）、実技試験（40点）で評価する

テキスト

理学療法学テキスト 理学療法評価学、編集 中山恭秀、メディカルビュー、5000円

参考図書、その他

脳卒中の機能評価—SIASとFIM[基礎編]、著・編集 千野直一、金原出版、3000円

前半は講義形式、後半は実技形式で行う

理学療法評価学実習Ⅱ

講師名 福井 直樹 (実務経験者)

学年 2 年 学期 後 期 時間 30 時間 必修 1 単位

講義目標

1. 運動器系障害の理学療法評価を列挙することができる 2. 運動器系障害の理学療法評価を健常者間で実施することができる 3. 運動器系障害の動作分析を理解することができる 4. OSCE (運動器系障害分野)の内容を実施することができる

授業計画

- 第1回 膝関節の構造と機能・膝関節内側の疼痛・膝関節外側の疼痛
 - 第2回 膝関節前面の疼痛・膝関節の運動学的評価
 - 第3回 股関節の構造と機能・股関節前面の疼痛
 - 第4回 股関節外側の疼痛・股関節の運動学的評価
 - 第5回 脊柱の構造と機能・頸部の疼痛
 - 第6回 胸腰部の構造と機能・胸腰部の疼痛
 - 第7回 手関節の構造と機能・手部のしびれ
 - 第8回 手関節尺側部の疼痛・手関節橈側部の疼痛
 - 第9回 肩関節の構造と機能・肩関節上方の疼痛・肩関節前上方の疼痛
 - 第10回 肩関節外側の疼痛・肩関節後方の疼痛
 - 第11回 足関節の構造と機能・足関節後方の疼痛・足関節前方の疼痛
 - 第12回 肘関節の構造と機能・肘関節内側の疼痛・肘関節外側の疼痛
 - 第13回 小テスト
OSCE解説ー運動器疾患に対する理学療法ー関節可動域測定
 - 第14回 OSCE練習ー運動器疾患に対する理学療法ー筋力測定
 - 第15回 OSCE練習ー運動器疾患に対する理学療法ー形態測定
-

履修上の注意

成績評価

小テスト(20%)、レポート課題(80%)で判断する

テキスト

運動器機能障害の「なぜ？」がわかる評価戦略 工藤 慎太郎 医学書院 5,200円＋税

参考図書、その他

理学療法学テキスト 理学療法評価学、編集 中山恭秀、メディカルビュー
運動器疾患の機能解剖に基づく評価と解釈 運動と医学の出版社

実習

応用評価学演習

講師名 石橋 誠隆（実務経験者）

学年 3 年 学期 後 期 時間 30 時間 選択 1 単位

講義目標

1. 生活、生活障害の基本的な階層構造を知る
 2. 各ユニットにおける問題構造の捉え方および目標設定の仕方を学ぶ
 3. 各ユニットの理学療法プランと制約条件の基本的な設定が行える
 4. 代表的な疾患における「型」としての臨床思考を身に着ける
-

授業計画

- 第1回 ガイダンス “生活” と “生活障害” を知る
 - 第2回 障害構造を把握せよ
 - 第3回 解決すべき課題の目標と介入方法を立案せよ
 - 第4回 問題解決モデルを用いた統合解釈の基本的手順とは？
 - 第5回 疾患別問題解決思考①大腿骨頸部骨折（回復期）
疾患の基本概念とユニットごとの特徴
 - 第6回 疾患別問題解決思考①大腿骨頸部骨折（回復期）
症例を用いたグループワーク
 - 第7回 疾患別問題解決思考②変形性膝関節症（生活期）
疾患の基本概念とユニットごとの特徴
 - 第8回 疾患別問題解決思考②変形性膝関節症（生活期）
症例を用いたグループワーク
 - 第9回 疾患別問題解決思考③被殻出血（急性期）
疾患の基本概念とユニットごとの特徴
 - 第10回 疾患別問題解決思考③被殻出血（急性期）
症例を用いたグループワーク
 - 第11回 疾患別問題解決思考④Parkinson病（中度障害期）
疾患の基本概念とユニットごとの特徴
 - 第12回 疾患別問題解決思考④Parkinson病（中度障害期）
症例を用いたグループワーク
 - 第13回 疾患別問題解決思考⑤慢性閉塞性肺疾患（回復期）
疾患の基本概念とユニットごとの特徴
 - 第14回 疾患別問題解決思考⑤慢性閉塞性肺疾患（回復期）
症例を用いたグループワーク
 - 第15回 まとめ
-

履修上の注意

臨床思考を身に着けるため、これまで学んだ理学療法の知識が必要となります。予習課題にもしっかりと取り組んでください。

成績評価

レポート（60%）、予習課題などの提出物（40%）で評価を行います

テキスト

問題解決モデルで見る理学療法臨床思考、加藤健太郎他編集、文光堂、3000円＋税

参考図書、その他

理学療法臨床診断学への志向ARIMAの問題解決モデル、有馬慶美著、文光堂、3600円＋税

グループワークを中心にアクティブラーニング型授業を行います

運動療法学

講師名 吉崎 邦夫 (実務経験者)

学年 2 年 学期 後 期 時間 30 時間 必修 1 単位

講義目標 運動療法とは運動を利用した治療の方法であり、理学療法のなかでも中心的位置を占める。その活用について疾患別の運動療法の前段階で修得する基礎的事項の説明ができるを目標とする。

授業計画

- 第1回 総論 運動療法とは何か
- 第2回 筋機能と運動療法 (講義)
- 第3回 関節可動性と運動療法 1 (講義)
- 第4回 バランス機能と運動療法 1 (講義)
- 第5回 関節可動性と運動療法 2 (講義・実技)
- 第6回 バランス機能と運動療法 2 (講義・実技)
- 第7回 基本動作 1-1 (背臥位・寝返り・起き上がり動作障害)と運動療法 (講義)
- 第8回 基本動作 1-2 (背臥位・寝返り・起き上がり動作障害)と運動療法 (講義・実技)
- 第9回 基本動作 2-1 (座位・立ち上がり動作障害)と運動療法 (講義)
- 第10回 基本動作 2-2 (座位・立ち上がり動作障害)と運動療法 (講義・実技)
- 第11回 基本動作 3-1 (立位・歩行動作障害)と運動療法 (講義)
- 第12回 基本動作 3-2 (立位・歩行動作障害)と運動療法 (講義・実技)
- 第13回 加齢による運動機能変化と運動療法 (講義・実技)
- 第14回 運動学習と運動療法 (講義)
- 第15回 運動に影響する機能と運動療法 (講義)

履修上の注意 予習復習をしっかりと行い、積極的に授業に参加すること。

成績評価 課題(30%)、定期試験(70%)で総合的に判断する。

テキスト

Crosslink 理学療法学テキスト 運動療法学 対馬栄輝 編 メジカルビュー社 5,720円 (本体5,200円+税)

参考図書、その他

理学療法ハンドブック 細田多穂・他 編集 協同医書出版社
運動療法学第2版-
障害別アプローチの理論と実際 市橋則明 編 文光堂

講義と実技

運動療法学実習Ⅰ

講師名 松井 有史 (実務経験者)

学年 3 年 学期 前期 時間 30 時間 必修 1 単位

講義目標

1. 各疾患特有の動作を理解することができる
2. 各疾患の動作を見て問題点を抽出することができる
3. 動作の問題点から治療プログラムを想起することができる

授業計画

- 第1回 異常歩行の病態と類型分類
- 第2回 異常歩行の運動分析と演習
- 第3回 脳卒中片麻痺患者の異常歩行パターンの分析と演習1 (分析方法)
- 第4回 脳卒中片麻痺患者の異常歩行パターンの分析と演習2 (演習)
- 第5回 脳卒中片麻痺患者の歩行障害の病態と装具の効果
- 第6回 脳卒中片麻痺患者の立ち上がり動作に対する病態運動の分析と運動療法
- 第7回 パーキンソン病の立ち上がり・立位・歩行における典型的病態運動の分析と演習 1 (分析方法)
- 第8回 パーキンソン病の立ち上がり・立位・歩行における典型的病態運動の分析と演習 2 (演習)
- 第9回 運動失調の協調運動障害における病態運動の分析と演習
- 第10回 変形性関節疾患の歩行障害
- 第11回 バランス障害 (立位・座位) の病態運動の分析と演習 1 (分析方法)
- 第12回 バランス障害 (立位・座位) の病態運動の分析と演習 2 (演習)
- 第13回 呼吸の病態運動
- 第14回 高齢者の運動障害と特徴
- 第15回 まとめ

履修上の注意

身体を動かして理解するのが一番の学習法と考えるため、真剣に取り組むこと

成績評価

小テスト(20%) レポート課題(20%)、定期試験(60%)で評価を行う

テキスト

動作分析 臨床活用講座—バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践、石井信一郎、メディカルビュー、6000円+税

ペリー歩行分析(正常歩行と異常歩行)、Jacquelin Perry (著)、医歯薬出版

講義と演習を交互に行う

運動療法学実習Ⅱ

講師名 福井 直樹 (実務経験者)

学年 3 年 学期 前期 時間 30 時間 必修 1 単位

講義目標 1. 各疾患の運動療法を想起・列挙できる
2. 各疾患のトレーニングを健常者間で実践できるようになる

授業計画

第1回 下肢骨折「目標提示」→「予習」→「レクチャー」

第2回 下肢骨折「アクティブ・ラーニング」→「到達度確認」

第3回 下肢骨折「アクティブ・ラーニング」→「到達度確認」

第4回 上肢骨折「目標提示」→「予習」→「レクチャー」

第5回 上肢骨折「アクティブ・ラーニング」→「到達度確認」

第6回 変形性股関節症・大腿骨頭壊死「目標提示」→「予習」→「レクチャー」

第7回 変形性股関節症・大腿骨頭壊死「アクティブ・ラーニング」→「到達度確認」

第8回 変形性膝関節症「目標提示」→「予習」→「レクチャー」

第9回 変形性膝関節症「アクティブ・ラーニング」→「到達度確認」

第10回 肩関節疾患「目標提示」→「予習」→「レクチャー」

第11回 肩関節疾患「アクティブ・ラーニング」→「到達度確認」

第12回 脊椎疾患「目標提示」→「予習」→「レクチャー」

第13回 脊椎疾患「アクティブ・ラーニング」→「到達度確認」

第14回 慢性疼痛疾患「目標提示」→「予習」→「レクチャー」

第15回 慢性疼痛疾患「アクティブ・ラーニング」→「到達度確認」

履修上の注意

成績評価

小テスト(40%)、講義内レポート課題(60%)

テキスト

骨関節障害理学療法学 対馬栄輝 文光堂 4,800円＋税

参考図書、その他

標準理学療法学専門分野 運動療法学 総論、吉尾雅治、医学書院
15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 運動療法学

実習

物理療法学実習

講師名 福井 直樹 (実務経験者)

学年 2 年 学期 後 期 時間 30 時間 必修 2 単位

講義目標

1. 物理療法による生理学的作用について理解する
2. 物理療法による病理学的作用について理解する
3. 各種物理療法をエビデンスに基づいてに実践し、変化を捉えることができるようになる

授業計画

- 第1回 物理療法とは
- 第2回 痛みの生理学と病理学
- 第3回 関節可動域制限
- 第4回 温熱療法に必要な物理学と生理学
- 第5回 ホットパック・パラフィン浴
- 第6回 水治療法
- 第7回 超短波療法・極超短波療法
- 第8回 超音波療法
- 第9回 寒冷療法
- 第10回 光線療法
- 第11回 電気をういた治療
- 第12回 TENS
- 第13回 NMES
- 第14回 イオントフォレーシス・バイオフィードバック療法・創傷治療のための電気刺激療法
- 第15回 圧迫療法・牽引療法・振動刺激療法

履修上の注意

第17回～30回は実習ができる服装で参加すること。

成績評価

成績評価は小テスト(20%)第17回～30回の7度のレポート課題(80%)で判定する。

テキスト

エビデンスから身につける物理療法、庄本康治、羊土社、5720円

参考図書、その他

EBM物理療法 原著第4版 医歯薬出版
最新理学療法学講座 物理療法学 医歯薬出版株式会社
物理療法学 金原出版株式会社
理学療法学テキスト 物理療法学 メジカルビュー社
イラストでわかる 物理療法 医歯薬出版株式会社

実習

物理療法学実習

講師名 福井 直樹 (実務経験者)

学年 2 年 学期 後 期 時間 30 時間 必修 2 単位

講義目標

1. 物理療法による生理学的作用について理解する
 2. 物理療法による病理学的作用について理解する
 3. 各種物理療法をエビデンスに基づいてに実践し、変化を捉えることができるようになる
-

授業計画

- 第16回 物理療法実習ガイダンス；小テスト：1～15
- 第17回 ホットパック・パラフィン浴実習準備
- 第18回 ホットパック・パラフィン浴実習；レポート課題
- 第19回 水治療法実習準備
- 第20回 水治療法実習；レポート課題
- 第21回 超短波療法・極超短波療法実習準備
- 第22回 超短波療法・極超短波療法実習；レポート課題
- 第23回 超音波療法実習準備
- 第24回 超音波療法実習；レポート課題
- 第25回 寒冷療法実習準備
- 第26回 寒冷療法実習；レポート課題
- 第27回 TENS実習準備
- 第28回 TENS実習 &；レポート課題
- 第29回 NMES実習準備
- 第30回 NMES実習；レポート課題
-

履修上の注意

第17回～30回は実習ができる服装で参加すること。

成績評価

成績評価は小テスト(20%)第17回～30回の7度のレポート課題(80%)で判定する。

テキスト

エビデンスから身につける物理療法、庄本康治、羊土社、5720円

参考図書、その他

EBM物理療法 原著第4版 医歯薬出版
最新理学療法実習講座 物理療法学 医歯薬出版株式会社
物理療法学 金原出版株式会社
理学療法実習テキスト 物理療法学 メジカルビュー社
イラストでわかる 物理療法 医歯薬出版株式会社

実習

運動器障害理学療法学実習

講師名 松永 秀俊 (実務経験者)

学年 3 年 学期 後 期 時間 60 時間 必修 2 単位

講義目標

授業目標は、部位別の運動器障害の理学療法を実施するために必要な検査、評価、治療技能を身につける。授業内容は、筋骨格系に生じる障害の捉え方（評価）、その原因特定までの分析過程、原因を取り除くための介入手技について実習および演習を通じて学習する。

授業計画

- 第1回 運動器障害理学療法とは
 - 第2回 腰部・脊椎疾患①（疾患の概要、検査測定を選択、実施）
 - 第3回 腰部・脊椎疾患②（評価）
 - 第4回 腰部・脊椎疾患③（治療プログラム立案、実施）
 - 第5回 頸部・脊椎疾患①（疾患の概要、検査測定を選択・実施）
 - 第6回 頸部・脊椎疾患②（評価）
 - 第7回 頸部・脊椎疾患③（治療プログラム立案・実施）
 - 第8回 変形性関節症（股関節）①（疾患の概要、検査測定を選択・実施）
 - 第9回 変形性関節症（股関節）②（評価）
 - 第10回 変形性関節症（股関節）③（治療プログラム立案・実施）
 - 第11回 変形性関節症（膝関節）①（疾患の概要、検査測定を選択・実施）
 - 第12回 変形性関節症（膝関節）②（評価）
 - 第13回 変形性関節症（膝関節）③（治療プログラム立案・実施）
 - 第14回 OSCE（脊椎疾患、変形性関節症）（検査測定）
 - 第15回 OSCE（脊椎疾患、変形性関節症）（評価）
-

履修上の注意

講義には出席することが必須であり、欠席、遅刻には注意すること。
内容は整形外科分野で多く診られる疾患について学ぶ。疾患別の評価、治療のマニュアルが完成することで実習時の資料となる。

成績評価

主に定期試験にて判断する。実技試験の実施は未定。

テキスト

教科書名 運動器障害理学療法学 編集 加藤浩
出版社 MEDICAL VIEW 金額 6500円
+税（2020年12月10日現在）

参考図書、その他

講義の進行に合わせ資料を配布する。

講義型授業、問答型授業、対話型授業、実習の混合

運動器障害理学療法学実習

講師名 松永 秀俊

(実務経験者)

学年 3 年 学期 後 期 時間 60 時間 必修 2 単位

講義目標

授業目標は、部位別の運動器障害の理学療法を実施するために必要な検査、評価、治療技能を身につける。授業内容は、筋骨格系に生じる障害の捉え方（評価）、その原因特定までの分析過程、原因を取り除くための介入手技について実習および演習を通じて学習する。

授業計画

- 第16回 OSCE（脊椎疾患、変形性関節症）（発表）
- 第17回 大腿骨頸部骨折①（疾患の概要、検査測定を選択・実施）
- 第18回 大腿骨頸部骨折②（評価、治療プログラム立案・実施）
- 第19回 脊椎圧迫骨折①（疾患の概要、検査測定を選択・実施、評価）
- 第20回 脊椎圧迫骨折②（治療プログラム立案・実施）
- 第21回 膝靭帯損傷（疾患の概要、検査測定を選択・実施、評価、治療プログラム立案・実施）
- 第22回 膝半月板損傷（疾患の概要、検査測定を選択・実施、評価、治療プログラム立案・実施）
- 第23回 肩関節周囲炎（疾患の概要、検査測定を選択・実施、評価、治療プログラム立案・実施）
- 第24回 関節リウマチ（疾患の概要、検査測定を選択・実施、評価、治療プログラム立案・実施）
- 第25回 末梢神経障害（疾患の概要、検査測定を選択・実施、評価・治療プログラム立案・実施）
- 第26回 運動器不安定症・運動器症候群（疾患の概要、検査測定を選択・実施、評価、治療プログラム立案・実施）
- 第27回 OSCE（大腿骨頸部骨折、脊椎圧迫骨折、膝靭帯損傷、半月板損傷、肩関節周囲炎、RA、末梢神経損傷、他）（検査測定）
- 第28回 OSCE（大腿骨頸部骨折、脊椎圧迫骨折、膝靭帯損傷、半月板損傷、肩関節周囲炎、RA、末梢神経損傷、他）（評価）
- 第29回 OSCE（大腿骨頸部骨折、脊椎圧迫骨折、膝靭帯損傷、半月板損傷、肩関節周囲炎、RA、末梢神経損傷、他）（発表）
- 第30回 まとめ

履修上の注意

講義には出席することが必須であり、欠席、遅刻には注意すること。
内容は整形外科分野で多く診られる疾患について学ぶ。疾患別の評価、治療のマニュアルが完成することで実習時の資料となる。

成績評価

主に定期試験にて判断する。実技試験の実施は未定。

テキスト

教科署名 運動器障害理学療法学 編集 加藤浩
出版社 MEDICAL & VIEW 金額 6500円
+税（2020年12月10日現在）

参考図書、その他

講義の進行に合わせ資料を配布する。

講義型授業、問答型授業、対話型授業、実習の混合

スポーツ障害理学療法学実習

講師名 河西 紀秀 (実務経験者)

学年 3 年 学期 後 期 時間 30 時間 選択 1 単位

講義目標 競技特性を考慮したスポーツ障害を理解し、競技復帰のための理学療法プログラムの作成ができるようになる。

授業計画

- 第1回 スポーツ理学療法の概要と考え方について
- 第2回 スポーツ外傷・障害の概念について
- 第3回 スポーツ活動支援における理学療法士の役割について
- 第4回 スポーツ外傷の対応（応急処置 他）について
- 第5回 下肢のスポーツ傷害①
- 第6回 下肢のスポーツ傷害②
- 第7回 下肢のスポーツ傷害③
- 第8回 テーピング実技
- 第9回 テーピング実技
- 第10回 上肢のスポーツ傷害
- 第11回 投球障害の評価・実技
- 第12回 体幹のスポーツ傷害①
- 第13回 体幹のスポーツ傷害②
- 第14回 アスレティックリハビリテーション（実技）
- 第15回 まとめ

履修上の注意 講義と実技を織り交ぜながら進めていく。可能な限り画像・映像を使用して理解を深めるようにする。

成績評価 定期試験の結果で評価します

テキスト

参考図書、その他

標準理学療法学 作業療法学 専門基礎分野 整形外科学
第4版 医学書院

講義と実技

中枢神経障害理学療法学実習

講師名 非常勤講師 (実務経験者)

学年 3 年 学期 後 期 時間 30 時間 必修 2 単位

講義目標 中枢神経障害における理学療法アプローチを理解することを目標とする。

授業計画

第1回	総論	中枢神経障害の全容
第2回	片麻痺	片麻痺の原因、脳血管障害とは
第3回	片麻痺	脳血管障害の診断、急性期治療
第4回	片麻痺	片麻痺患者の評価(1)
第5回	片麻痺	片麻痺患者の評価(2)
第6回	片麻痺	重症片麻痺例に対する回復期理学療法の実際 (その1)
第7回	片麻痺	重症片麻痺例に対する回復期理学療法の実際 (その2)
第8回	片麻痺	演習1A グループ討議 B 症例の提示によるロールプレイ
第9回	片麻痺	軽症片麻痺例に対する回復期理学療法の実際 (その1)
第10回	片麻痺	軽症片麻痺例に対する回復期理学療法の実際 (その2)
第11回	片麻痺	演習2 A グループ討議 B 症例の提示によるロールプレイ
第12回	片麻痺	日常生活における身体機能の活用 (生活機能の向上)
第13回	片麻痺	実習1 片麻痺障害における動作の特徴・基本動作・車椅子動作・装具など
第14回	片麻痺	片麻痺者にみられる合併症とその対策
第15回	片麻痺	高次脳機能障害・嚥下障害と理学療法

履修上の注意

成績評価 授業態度(20%)、小テスト(20%)、定期試験(60%)

テキスト

シンプル理学療法シリーズ 神経筋障害理学療法テキスト
中枢神経障害理学療法学テキスト改訂第3版
5,000円

参考図書、その他

リハに役立つ脳画像MEDICAL VIEW 高次機能障害学
医歯薬出版 脳卒中理学療法の理論と技術 原寛
美

講義

中枢神経障害理学療法学実習

講師名 非常勤講師 (実務経験者)

学年 3 年 学期 後 期 時間 30 時間 必修 2 単位

講義目標 中枢神経障害における理学療法アプローチを理解することを目標とする。

授業計画

第16回 運動失調 運動失調とは

第17回 運動失調 小脳性運動失調の理学療法

第18回 運動失調 演習3 A グループ討議
B 症例の提示によるロールプレイ

第19回 パーキンソン症状 パーキンソン病とは

第20回 パーキンソン症状 パーキンソン病の理学療法

第21回 パーキンソン症状 演習4 A グループ討議
B 症例提示によるロールプレイ

第22回 四肢麻痺・対麻痺 脊髄損傷の原因、脊髄の解剖・機能

第23回 四肢麻痺・対麻痺 自律神経と脊髄損傷の随伴・合併症

第24回 四肢麻痺・対麻痺 脊髄損傷の評価

第25回 四肢麻痺・対麻痺 四肢麻痺の理学療法（急性期）

第26回 四肢麻痺・対麻痺 四肢麻痺の理学療法（回復期）

第27回 四肢麻痺・対麻痺 対麻痺の理学療法（急性期）

第28回 四肢麻痺・対麻痺 対麻痺の理学療法（回復期）

第29回 四肢麻痺・対麻痺 演習3 基本動作・車いす応用動作・対麻痺者の立位・歩行動作

第30回 脊髄損傷者の社会参加とスポーツプログラム

履修上の注意

成績評価 授業態度(20%)、小テスト(20%)、定期試験(60%)

テキスト

シンプル理学療法シリーズ 神経筋障害理学療法テキスト
中枢神経障害理学療法学テキスト改訂第3版
5,000円

参考図書、その他

リハに役立つ脳画像MEDICAL VIEW 高次機能障害学
医歯薬出版 脳卒中理学療法の理論と技術 原寛美

講義

神経筋疾患理学療法学実習

講師名 福井 直樹 (実務経験者)

学年 3 年 学期 前期 時間 30 時間 必修 1 単位

講義目標

1. 各種神経筋疾患の病態・症状について理解する
2. 各種神経筋疾患の評価項目が列挙できる
3. 各種神経筋疾患の治療が列挙できる

授業計画

- 第1回 脊髄小脳変性症の病態・症状
- 第2回 脊髄小脳変性症の評価・治療
- 第3回 脊髄小脳変性症の予後・症例
- 第4回 筋萎縮性側索硬化症の病態・症状
- 第5回 筋萎縮性側索硬化症の評価・治療
- 第6回 筋萎縮性側索硬化症の予後・症例
- 第7回 多発性硬化症の病態・症状
- 第8回 多発性硬化症の評価・治療・予後・症例
- 第9回 ギラン・バレー症候群の病態・症状
- 第10回 ギラン・バレー症候群の評価・治療・予後・症例
- 第11回 シャルコー・マリー・トゥース病の病態・症状・治療・予後・症例
- 第12回 多発性筋炎・皮膚筋炎の病態・症状・治療・予後・症例
- 第13回 筋ジストロフィー（筋強直性ジストロフィー・他）の病態・症状・治療・予後・症例
- 第14回 末梢神経障害（糖尿病神経障害・顔面麻痺・他）
- 第15回 ポストポリオ症候群・重症筋無力症・その他の神経・筋疾患

履修上の注意

成績評価 レポート課題(20%)、定期試験(80%)で判断する

テキスト

臨床につながる神経・筋疾患 花山 耕三 著
医歯薬出版

参考図書、その他

標準理学療法学 専門分野 神経理学療法学 医学書院
ベッドサイドの神経の見方 南山堂

実習

系統別・治療手技演習

講師名 松永 秀俊

(実務経験者)

学年 3 年 学期 後 期 時間 30 時間 選択 1 単位

講義目標

授業目標は、理学療法における重要な治療手技（マニュアルセラピー）を実施するために各系統別・治療手技を理解し、解剖学、生理学、運動学などの知識をもとに症候に適した治療手技を選択し、実施できることである。授業内容としては、1. 各治療手技の基礎理論を理解し、説明することができる。2. 骨・筋・軟部組織を触診し、各種治療手技をもちいて基礎的な評価・実践ができることである。

授業計画

- 第1回 【総論】学派別の体系
 - 第2回 【各論】軟部組織のモビライゼーション（横断・機能マッサージ）
 - 第3回 軟部組織モビライゼーション（ストレッチング）①（僧帽筋、肩甲挙筋、広背筋、三角筋）
 - 第4回 軟部組織モビライゼーション（ストレッチング）②（上腕二頭筋、上腕三頭筋、腕橈骨筋）
 - 第5回 軟部組織モビライゼーション（ストレッチング）③（長・短橈側手根伸筋、腸腰筋、股関節内転筋）
 - 第6回 軟部組織モビライゼーション（ストレッチング）④（大腿四頭筋、下腿三頭筋）
 - 第7回 関節モビライゼーションの考え方
 - 第8回 関節モビライゼーション①（肩関節）
 - 第9回 関節モビライゼーション②（肘関節、前腕）
 - 第10回 関節モビライゼーション③（手関節、手指）
 - 第11回 関節モビライゼーション④（股関節）
 - 第12回 関節モビライゼーション⑤（膝関節、足関節）
 - 第13回 神経モビライゼーションの考え方（脳-脊髄-坐骨神経-脛骨神経-足底神経）
 - 第14回 神経系モビライゼーション①（正中神経、橈骨神経、尺骨神経）
 - 第15回 神経系モビライゼーション②（下肢の神経）
-

履修上の注意

講義には出席することが必須であり、欠席、遅刻には注意すること。
内容は臨床の場で用いられる関節、軟部組織、神経に対する治療技術を指導する。

成績評価

主に定期試験にて判断する。実技試験の実施は未定。

テキスト

運動療法Ⅰ第2版 千住秀明 神陵文庫

参考図書、その他

講義の進行に合わせ資料を配布する。

講義型授業、問答型授業、実習の混合

日常生活活動学

講師名 鍵井 一浩 (実務経験者)

学年 2 年 学期 後 期 時間 30 時間 必修 1 単位

講義目標 本講義では PC と教科書を利用し、検査方法と疾患別のADLを学び実践で安全・正確に活用できる移乗と介助方法の実技を習得していく

授業計画

- 第1回 ADLの概要(定義などの基礎知識)
- 第2回 日常生活の評価(評価の目的、留意点)
- 第3回 基本動作を学ぶ(安全で正確な介助と移乗方法を実技を通して学ぶ)
- 第4回 複合動作のポイント
- 第5回 リハビリテーション支援機器(福祉機器と福祉用具、自助具)
- 第6回 中枢神経・神経筋疾患ADL(片麻痺、パーキンソン病など)
- 第7回 中枢神経・神経筋疾患ADL(脊髄損傷、末梢神経損傷など)
- 第8回 呼吸・循環器障害疾患のADL
- 第9回 骨・関節疾患(切断、関節リウマチなど)
- 第10回 骨・関節疾患(骨・関節形態障害、慢性腰痛症など)
- 第11回 老年期の障害・高齢者の障害の理解(高齢者の身体機能、精神機能、高齢者疾患の特徴)
- 第12回 老年期の障害・高齢者の障害の理解(認知症、虚弱高齢者)
- 第13回 障害の特性(糖尿病、ストーマ、血友病)
- 第14回 障害の特性(五感障害、コミュニケーション障害、障害者・高齢者スポーツ)
- 第15回 地域リハビリテーション(サービス)、まとめ

履修上の注意 実技は実習で欠かせないのでできるまで指導していく

成績評価 実技(20%)と定期試験(80%)で判断する

テキスト

理学療法学テキストⅤ 日常生活活動(ADL)第2版

参考図書、その他

新版 日常生活活動(ADL)-評価と実際- 医歯薬出版株式会社、標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学 医学書院

講義形式と実技

日常生活活動学実習

講師名 石橋 誠隆 (実務経験者)

学年 3 年 学期 前期 時間 30 時間 必修 1 単位

講義目標

1. 正常のADL動作について理解する
2. 障害部位による介助とADL動作練習のポイントを理解する
3. 疾患別・障害別による動作・介助のポイントを理解する

授業計画

- 第1回 ADLとIADL
- 第2回 脳卒中片麻痺患者のADL (起居・移動・移乗)
- 第3回 ADLに必要な福祉機器について
- 第4回 脊髄損傷のADL (起居・移動・移乗)
- 第5回 脊髄損傷のADL (食事・排泄・更衣etc)
- 第6回 脳卒中片麻痺患者のADL (食事・排泄・更衣・整容)
- 第7回 脳卒中片麻痺患者のADL (入浴・コミュニケーション・料理・洗濯・バス等の乗降)
- 第8回 パーキンソン病患者のADL (起居・移動・移乗)
- 第9回 パーキンソン病患者のADL (食事・更衣・整容etc)
- 第10回 神経筋疾患 (脳幹障害・筋ジストロフィー) のADL
- 第11回 COPD患者、心不全患者のADL
- 第12回 RA患者のADL
- 第13回 骨関節形態障害のADL
慢性腰痛症患者のADL
- 第14回 疾患別・障害別による動作・介助のポイントパート2
- 第15回 老年期障害のADL

履修上の注意

実技練習をおこなうので、実技を行いやすい服装で授業に参加してください。

成績評価

実技試験30%、レポート40%、提出物 (予習課題など) 30%

テキスト

シンプル理学療法学シリーズ 日常生活活動学テキスト、細田多穂、南江堂、4200円＋税

参考図書、その他

新版日常生活活動 (ADL) -評価と支援の実際、伊藤利之他編、医歯薬出版株式会社、6,800円 日常生活活動 (ADL) 第2版、千住秀明 監修、神陵文庫、4500円

実習 (一部講義) を中心としたアクティブラーニング形式の授業を行いますので、積極的に授業に取り組んでください。

生活環境学実習

講師名 石橋 誠隆 (実務経験者)

学年 3 年 学期 前期 時間 30 時間 必修 1 単位

講義目標

1. 生活環境整備が果たす役割を理解する
 2. 生活環境における課題および評価方法を理解する
 3. 生活環境整備の方法を理解する
 4. 地域の環境整備（公共交通・公共施設など）について理解する
-

授業計画

- 第1回 オリエンテーション、生活環境学について
 - 第2回 高齢者を取り巻く社会状況と住環境
 - 第3回 障害者を取り巻く社会状況と住環境
 - 第4回 住環境整備の共通基本技術
 - 第5回 障害別にみた住環境整備（肢体不自由、内部障害）
 - 第6回 障害別にみた住環境整備（視覚・聴覚・言語障害）
 - 第7回 障害別にみた住環境整備（認知・行動障害）
 - 第8回 生活行為別住環境整備の手法（外出、屋内移動、排泄）
 - 第9回 生活行為別住環境整備の手法（入浴、更衣、洗面、整容、調理・食事、就寝）
 - 第10回 福祉用具について
 - 第11回 生活環境の評価と改善計画
 - 第12回 生活環境評価の実践
 - 第13回 地域環境と公共交通
 - 第14回 地域環境と公共交通の調査
 - 第15回 まとめ
-

履修上の注意

福祉住環境コーディネーター検定試験2級の試験を受けたいものは連絡すること

成績評価

レポート60%、提出物（予習課題など）40%で評価します

テキスト

福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト、東京商工会議所、4500円＋税

参考図書、その他

シンプル理学療法学・作業療法学シリーズ生活環境学テキスト、細田 多穂（監修）、南江堂

講義およびグループワークにてアクティブラーニング型授業を行います

障害者スポーツ演習

講師名 森本 信三 (実務経験者)

学年 3 年 学期 前期 時間 30 時間 選択 1 単位

講義目標

1. 障がい者スポーツの意義と理念を理解できる
 2. 障がい者スポーツの現状と指導者育成制度について説明できる
 3. スポーツの喜びや楽しさを重視したスポーツの導入を支援できるような知識と技術を身につける
-

授業計画

- 第1回 障がい者スポーツの意義と理念
 - 第2回 障がい者スポーツの現状
 - 第3回 障がい者スポーツの指導者育成制度
 - 第4回 障がい者スポーツの支援方法
 - 第5回 障がい者スポーツの支援方法
 - 第6回 障がい者スポーツの実際 - 身体障害①
 - 第7回 障がい者スポーツの実際 - 身体障害②
 - 第8回 障がい者スポーツの実際 - 身体障害③
 - 第9回 障がい者スポーツの実際 - 身体障害④
 - 第10回 障がい者スポーツの実際 - 知的障害・精神障害①
 - 第11回 障がい者スポーツの実際 - 知的障害・精神障害②
 - 第12回 障がい者スポーツの実際 - 知的障害・精神障害③
 - 第13回 障がい者スポーツの実際 - 知的障害・精神障害④
 - 第14回 障害者スポーツの現状と課題①
 - 第15回 障害者スポーツの現状と課題②
-

履修上の注意

学外実習は、土日など時間外の場合があります。
・新型コロナウイルス感染症の状況によっては、授業計画や評価方法等を変更する可能性がある。

成績評価

実習態度50% レポート課題50%

テキスト

適宜紹介

参考図書、その他

適宜紹介

講義・演習・実習

応用物理療法学演習

講師名 福井 直樹 (実務経験者)

学年 3 年 学期 後 期 時間 30 時間 選択 1 単位

講義目標 1. 疼痛抑制電気刺激法のメカニズムとエビデンスを理解する 2. 微弱電流刺激法のメカニズムとエビデンスを理解する 3. 痙縮抑制のための電気刺激法のメカニズムとエビデンスを理解する 4. 前庭神経電気刺激法メカニズムとエビデンスを理解する

授業計画

- 第1回 デルマトームおよびスクレロトームを背景にした疼痛抑制電気刺激法の理論
- 第2回 デルマトームおよびスクレロトームを背景にした疼痛抑制電気刺激法の実践
- 第3回 広汎性侵害抑制を用いた疼痛抑制電気刺激法の理論
- 第4回 広汎性侵害抑制を用いた疼痛抑制電気刺激法の実践
- 第5回 遅発性筋痛に対する微弱電流電気刺激法の理論
- 第6回 遅発性筋痛に対する微弱電流電気刺激法の実践
- 第7回 褥瘡に対する微弱電流電気刺激法の理論
- 第8回 褥瘡に対する微弱電流電気刺激法の実践
- 第9回 痙縮抑制を目的とした神経筋電気刺激法の理論;小テスト：1～8
- 第10回 痙縮抑制を目的とした神経筋電気刺激法の実践
- 第11回 末梢神経電気刺激による運動学習効果の増強理論
- 第12回 末梢神経電気刺激による運動学習効果増強の実践
- 第13回 パーキンソン病や半側空間失認に対する前庭神経電気刺激法の理論
- 第14回 パーキンソン病や半側空間失認に対する前庭神経電気刺激法の実践
- 第15回 まとめ

履修上の注意 専門的な講義になるので、基礎知識を自己学習で補うこと。
実習ができる服装で参加すること。

成績評価 小テスト(20%)、講義中課題(20%)、レポート課題(60%)で判断する
課題：実践時にデータ提出

テキスト

参考図書、その他

エビデンスから身につける物理療法 羊土社 EBMP物理療法 原著第4版 医歯薬出版 最新理学療法学講座 物理療法学 医歯薬出版株式会社 物理療法学 金原出版株式会社 理学療法学テキスト 物理療法学 メジカルビュー社 イラストでわかる 物理療法 医歯薬出版株式会社 標準理学療法学 物理療法学 医学書院

演習

高次脳機能障害の治療法

講師名 湯川 喜裕 (実務経験者)

学年 3 年 学期 後 期 時間 30 時間 選択 1 単位

講義目標

①高次脳機能障害患者の病巣や症状について説明することができる。 ②高次脳機能障害患者の生活状況について説明することができる。 ③高次脳機能障害患者に対する多職種連携の必要性について説明することができる。 ④各症状に対するスクリーニング検査を実施することができる。 ⑤各症状に対するリハビリテーションの介入の意義や注意点などを説明することができる。

授業計画

- 第1回 高次脳機能障害の概要、授業オリエンテーション
 - 第2回 高次脳機能障害者の生活現状、および、地域における高次脳機能障害者支援の実際
 - 第3回 高次脳機能障害患者の支援と介入方法 グループワーク・発表
 - 第4回 意識・注意機能の評価の実際と解釈・注意障害におけるリハビリテーション中の注意事項
 - 第5回 注意障害の特徴と評価、リハビリテーション グループワーク・発表
 - 第6回 半側空間無視の評価の実際と解釈・半側空間無視におけるリハビリテーション中の注意事項
 - 第7回 半側空間無視の特徴と評価、リハビリテーション グループワーク・発表
 - 第8回 記憶の評価の実際と解釈・記憶障害におけるリハビリテーション中の注意事項
 - 第9回 記憶障害の特徴と評価、リハビリテーション グループワーク・発表
 - 第10回 遂行機能の評価の実際と解釈・遂行機能障害におけるリハビリテーション中の注意事項
 - 第11回 遂行機能障害の特徴と評価、リハビリテーション グループワーク・発表
 - 第12回 行為の評価の実際と解釈・失行におけるリハビリテーション中の注意事項
 - 第13回 失行の特徴と評価、リハビリテーション グループワーク・発表
 - 第14回 言語の評価の実際と解釈・失語におけるリハビリテーション中の注意事項
 - 第15回 高次脳機能障害の治療法の統括 グループワーク・発表
-

履修上の注意

能動的に授業やグループワークに参加するようにすること。
授業後は、復習をしっかりと行い知識の定着に努めること。

成績評価

グループワーク課題やその発表内容について40%、定期試験60%で判定する。

テキスト

高次脳機能障害作業療法学(作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト) 長崎 重信 (株)メジカルビュー社 4840円

参考図書、その他

適宜配布する。

講義とグループワークを中心に実施する。

認知症の理解とその支援

講師名 大松 慶子 (実務経験者)

学年 3 年 学期 後 期 時間 30 時間 選択 1 単位

講義目標 1.認知症の疫学とその分類、症状と、認知症の人を取り巻く社会背景と支援方法を理解し、説明することができる 2.認知症の人のその人らしさを尊重した専門職としての支援方法を考えることができる 3.認知症の人のその人らしさを尊重した専門職としての支援する態度を述べるができる

授業計画

- 第1回 認知症の定義と症状
- 第2回 疾患の特徴ー（軽度認知障害、アルツハイマー病、レビー小体型認知症）
- 第3回 国の認知症対策
- 第4回 治療の方法（薬物療法、非薬物療法）
- 第5回 評価の手順と考え方-1
- 第6回 評価の手順と考え方-2
- 第7回 支援の枠組み、心身機能に対する支援（認知リハビリテーション、学習療法）
- 第8回 心身機能に対する支援（運動療法、言語リハビリテーション）
- 第9回 活動と参加に対する支援（アクティビティ、ADL・IADL）
- 第10回 活動と参加に対する支援（コミュニケーション支援、回想法）
- 第11回 活動と参加に対する支援（レクリエーション、芸術・刺激療法）
- 第12回 環境に対する支援（介護者への支援、ピアサポート、制度利用）
- 第13回 社会の中で生きる認知症の人たち
- 第14回 認知症の人に対する支援の事例
- 第15回 まとめ

履修上の注意 授業内容を生かした提出物やレポートを作成すること。

成績評価 授業中に指示した提出物50%、課題レポート50% で判断する。
課題①パーソンセンタードケアとはどのようなものか。その考え方、対応方法、具体例2つを述べなさい。②授業でとりあげた認知症の人に対する支援方法のうち1つについて、その考え方、実施手順、効果、具体例2つを述べなさい。

テキスト

今村徹・能登真一 編 QOLを高める 認知症リハビリテーションハンドブック 医学書院
4,180円

参考図書、その他

授業中に提示する

講義と演習を組み合わせる。

レクリエーション活動演習

講師名 巽 絵理 (実務経験者)

学年 3 年 学期 後 期 時間 30 時間 選択 1 単位

講義目標 1.レクリエーションの実施の目的と方法を説明できる
2.レクリエーションの計画立案・実施ができる
3.レクリエーションの実施後の振り返りを行い、内容の修正ができる

授業計画 第1回 ガイダンス
第2回 レクリエーションの目的と実施方法
第3回 レクリエーションの目的と効果、その実際
第4回 レクリエーションの企画①
第5回 レクリエーションの企画②
第6回 レクリエーションの企画③
第7回 レクリエーションの準備①
第8回 レクリエーションの準備②
第9回 レクリエーションの準備③
第10回 レクリエーションの準備④
第11回 レクリエーションの実施①
第12回 レクリエーションの実施②
第13回 レクリエーションの実施③
第14回 レクリエーションの実施④
第15回 振り返り

履修上の注意 講義時間は時間割通りにはならない場合があります。
レクリエーションの実施場所は、学生自身（グループ）で検討し、調整することも課題内容とします。

成績評価 授業への取り組み・実習態度（積極性・協調性・コミュニケーション）60%、課題レポート（企画書・報告書）40%

テキスト

適宜紹介

参考図書、その他

適宜紹介

演習

地域理学療法学Ⅰ

講師名 鍵井 一浩 (実務経験者)

学年 2 年 学期 後 期 時間 30 時間 必修 1 単位

講義目標 今後、理学療法でも拡大が予測される分野であるため、獲得した機能や能力を個々に合ったどのような場面で活かしていくことができるのかを考え、社会資源と結び付けていくことができる。

授業計画

- 第1回 地域理学療法とは？ 地域リハビリテーションの概念
- 第2回 医療機関・施設の役割と地域における社会資源①（フォーマル）
- 第3回 医療機関・施設の役割と地域における社会資源②（インフォーマル）
- 第4回 他職種とどのように協働していくのかを理解する
- 第5回 地域の中でどのような機関・施設と連携していくのかを考える
- 第6回 制度と関連法規（介護保険等）
- 第7回 要介護認定とケアマネジメント(特定疾患の評価と介入方法)
- 第8回 介護予防と障害予防
- 第9回 地域包括システムを理解する
- 第10回 地域ケア会議と地域にある社会資源の活用
- 第11回 退院後の生活を考える(障害者雇用)
- 第12回 生活保護制度と難病
- 第13回 在宅医療にかかる知識（摂食嚥下・胃瘻・IVH・人工呼吸器・褥瘡）
- 第14回 住環境評価と住環境整備（住宅改修）福祉用具（歩行補助具・車いす・移乗機器・日常生活用具・環境制御装置）
- 第15回 まとめ

履修上の注意

講義中に指名をすることもあります。積極的に講義に参加する。

成績評価

受講態度(20%)、定期試験(80%)で判断する

テキスト

地域リハビリテーション学第2版 重森健太 羊土社
4500円＋税

参考図書、その他

理学療法学テキスト地域理学療法学 浅川康吉
MWDICLVIEW 4500円＋税

講義形式とグループワーク

地域理学療法学Ⅱ

講師名 鍵井 一浩 (実務経験者)

学年 3 年 学期 前期 時間 30 時間 必修 1 単位

講義目標 理学療法士の地域の中での役割とその取り組みについて理解できること

授業計画

- 第1回 施設における理学療法（入院・入所）①
- 第2回 施設における理学療法（入院・入所）②
- 第3回 施設における理学療法（入院・入所）③
- 第4回 訪問理学療法(注意点・役割・制度・診療報酬)
- 第5回 通所理学療法(注意点・役割・制度・診療報酬)
- 第6回 ポジショニングとシーティング
- 第7回 動作指導と介助方法の指導
- 第8回 地域における理学療法グループワーク【社会資源とは、近隣市における社会資源】
- 第9回 地域における理学療法 課題発表1【社会資源とは、近隣町村における社会資源】
- 第10回 地域における理学療法グループワーク【介護老人保健施設の役割・機能】
- 第11回 地域における理学療法 課題発表2【介護老人保健施設の役割・機能】
- 第12回 地域における理学療法グループワーク【特別養護老人ホームの役割・機能】
- 第13回 地域における理学療法 課題発表3【特別養護老人ホームの役割・機能】
- 第14回 地域における理学療法グループワーク【通所リハビリテーションの役割・機能】
- 第15回 地域における理学療法 課題発表4【通所リハビリテーションの役割・機能】

履修上の注意 積極的にグループワークに取り組み発表する姿勢を持ってください。

成績評価 受講・発表態度(20%)，定期試験(80%)で判断する

テキスト

地域リハビリテーション学第2版 重森健太 羊土社
4500円＋税

参考図書、その他

理学療法学テキスト地域理学療法学 浅川康吉
MWDICLVIEW 4500円＋税

講義形式とグループワーク、発表

地域理学療法実習

講師名 鍵井 一浩 (実務経験者)

学年 3 年 学期 後 期 時間 30 時間 必修 1 単位

講義目標 地域で活動する理学療法士に帯同し、介護保険サービスのあり方や各種福祉用具の用途、環境整備の提供方法を理解する。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 オリエンテーション 実習の個人目標立案
- 第3回 施設見学実習1 (挨拶)
- 第4回 施設見学実習2 (施設の役割などを知る)
- 第5回 施設見学実習3 (対象者を知る)
- 第6回 施設見学実習4 (障害を知る)
- 第7回 施設理学療法士の行動を学ぶ
- 第8回 理学療法士が関わるサービス内容や専門性を検討する
- 第9回 地域の実情を知る
- 第10回 施設経営や病院経営について考える(診療・介護報酬)
- 第11回 現場の理学療法士の行動を学ぶ(施設基準について考える)
- 第12回 他職種との連携を学ぶ
- 第13回 対象者のニーズを知る(地域の中でできる理学療法士が行う訓練)
- 第14回 地域の社会資源について考える
- 第15回 サルコペニア・フレイルの考えを理解する(まとめ)

履修上の注意 施設や地域活動の現場に向いて見学実習を行う。利用者や対象者とのかわりに気を付けながら、理学療法士が現場でどのように考え行動しているかを学ぶこと。

成績評価 受講態度(20%)、レポート課題(80%)で判断する。

テキスト 参考図書、その他

資料配布

介護支援支援専門員実践テキスト 中央法規8800円(税込)
リハビリ部門管理者のための実践テキスト2600円+税

施設の見学や実習を取り入れながら、教科書と結びつけた学習を行う。

理学療法見学実習

講師名

松永秀俊 吉崎邦夫 鍵井一浩 松井有史 福井直樹 禹炫在
(全員実務経験者)

学年 1 年 学期 前期 時間 45 時間 必修 1 単位

講義目標

リハビリテーションチームにおける理学療法の実践および理学療法士の役割と責任について理解を深める。また対象者（患者・家族等）との関わりを通して人との対応やコミュニケーションの方法など、医療の専門職として基本的な接遇のあり方を習得する。

授業計画

- 1日目 オリエンテーション（実習目的と実習内容）
 - 2日目 実習病院及び理学療法場面を見学し、指導者より理学療法士の役割について説明を受ける
 - 3日目 理学療法場面を見学し、指導者より理学療法士の専門性について説明を受ける
 - 4日目 理学療法場面を見学し、指導者より代表的な対象疾患及び障害像について説明を受ける
 - 5日目 実習まとめ
-

履修上の注意

詳細は臨床実習要綱を参照のこと。
実習中は臨床実習指導者のもとチームの一員として様々な理学療法過程を体験する。
実習前後のガイダンス・報告会には必ず出席すること。

成績評価

臨床実習終了時、総合評価における成績判定（S,A,B,C,D）は原則、本学がおこなう。実習指導者による本学規定の臨床実習報告書、実習中レポート、終了後まとめレポート及び発表会にて行う。

テキスト

参考図書、その他

リハビリテーション管理・運営実践ガイドブック
理学療法士の日

実習（学外・臨床実習）

理学療法体験実習

講師名

松永秀俊 吉崎邦夫 鍵井一浩 松井有史 福井直樹 禹炫在
(全員実務経験者)

学年 2 年 学期 前期 時間 90 時間 必修 2 単位

講義目標

【前半】地域包括支援システム（特に訪問または通所リハビリテーション）における理学療法士の役割を理解し、その対象となる利用者に対する理学療法を見学または一部を経験することで生活期の理学療法についての理解する。
【後半】リハビリテーションチームにおける理学療法の検査・測定、評価、治療の実際を見学またはその一部を体験することにより、理学療法士の役割と責任について理解を深める。また対象者（患者・家族等）との関わりを等して、理学療法士として対応や初期の導入や医療面接の方法などの一部を体験し、医療の専門職として基本的な態度・接遇のあり方を習得する。

授業計画

- 1 週目 オリエンテーションや見学を通して理学療法士像の一部を把握できる。
- 2 週目 臨床実習指導者のもと理学療法士像を把握できる。
- 3 週目 実習まとめ

履修上の注意

詳細は臨床実習要綱を参照のこと。
実習中は臨床実習指導者のもとチームの一員として様々な理学療法過程を体験する。
実習前後のガイダンス・報告会には必ず出席すること。

成績評価

臨床実習終了時、総合評価における成績判定（S,A,B,C,D）は原則、本学がおこなう。実習指導者による本学規定の臨床実習報告書、実習中レポート、終了後まとめレポート及び発表会にて行う。

テキスト

参考図書、その他

リハビリテーション評価データブック
理学療法評価学
3日間で行う理学療法臨床評価プランニング

実習（学外・臨床実習）

理学療法評価実習

講師名

松永秀俊 吉崎邦夫 鍵井一浩 松井有史 福井直樹 禹炫在
(全員実務経験者)

学年 3 年 学期 前期 時間 180 時間 必修 4 単位

講義目標

臨床実習を通じて、理学療法の評価に必要な知識、技術の基本的実践能力を身につける。

授業計画

- 1 週目 オリエンテーションや見学を通して一部の疾患・障害像を把握できる。
- 2 週目 臨床実習指導者のもと一部の疾患・障害像を把握できる。
- 3 週目 臨床実習指導者のもと患者に適した理学療法評価を抽出できる。
- 4 週目 臨床実習指導者のもと理学療法評価の一部を実施する。
- 5 週目 実習まとめ

履修上の注意

詳細は臨床実習要綱を参照のこと。
実習中は臨床実習指導者のもとチームの一員として様々な理学療法過程を経験する。
実習前後のガイダンス・報告会には必ず出席すること。

成績評価

臨床実習終了時、総合評価における成績判定 (S,A,B,C,D) は原則、本学がおこなう。成績判定の資料として本学の評定表に加え、臨床実習報告書、臨床実習経験表、凝縮ポートフォリオを参考に、実習後発表会及び口頭試問にて判定する。

テキスト

参考図書、その他

リハビリテーション評価ポケットマニュアル
理学療法評価学
理学療法臨床評価プランニング

実習 (学外・臨床実習)

理学療法総合臨床実習

講師名

松永秀俊 吉崎邦夫 鍵井一浩 松井有史 福井直樹 禹炫在
(全員実務経験者)

学年 4 年 学期 前期 時間 720 時間 必修 16 単位

講義目標

8週間2カ所の臨実習施設において総合臨床実習を行う。これまでの実習を踏まえた理学療法の臨床思考過程と実践方法を診療チームの一員として学ぶ。実習内容は、臨床実習指導者の指導の下で『見学』『協同参加』『監視』の各レベルにおいて、チームの一員として一部理学療法過程を体験する。また、その経験内容は日々の課題として蓄積していくように進める。

授業計画

実習前 OSCEから理学療法療法の評価技能及び理学療法治療過程の検討状況を確認する

1 週目 オリエンテーションや見学を通して多様な疾患・障害像を把握できる。

2 週目 多様な疾患・障害像を理解し、説明できる。

3 週目 臨床実習指導者と一緒に理学療法評価を実施できる

4 週目 臨床実習指導者と一緒に基本的理学療法の立案を一部実施できる

5 週目 臨床実習指導者と一緒に基本的理学療法を実施できる

6 週目 臨床実習指導者のもと一基本的理学療法の立案を実施できる

7 週目 臨床実習指導者のもと一基本的理学療法の一部を実施できる

8 週目 臨床実習指導者の監視のもとで一部の基本的理学療法が実施できる。

9 週目 オリエンテーションや見学を通して多様な疾患・障害像を把握できる。

10 週目 多様な疾患・障害像を理解し、説明できる。

11 週目 臨床実習指導者と一緒に理学療法評価を実施できる

12 週目 臨床実習指導者と一緒に基本的理学療法の立案を一部実施できる

13 週目 臨床実習指導者と一緒に基本的理学療法を実施できる

14 週目 臨床実習指導者のもと一基本的理学療法の立案を実施できる

15 週目 臨床実習指導者のもと一基本的理学療法の一部を実施できる

16 週目 臨床実習指導者の監視のもとで一部の基本的理学療法が実施できる。

実習後 OSCEから理学療法療法の評価技能及び理学療法治療過程の検討状況を確認する

履修上の注意

詳細は臨床実習要綱を参照のこと。
実習中は臨床実習指導者のもとチームの一員として様々な理学療法過程を経験する。

成績評価

実習前後に客観的臨床能力試験(OSCE)を行う。臨床実習終了時、総合評価における成績判定(S,A,B,C,D)は原則、本学がおこなう。成績判定の資料として本学指定の評定表に加え、臨床実習報告書、臨床実習経験表、凝縮ポートフォリオを参考に、実習前後のOSCEの結果、実習後発表会及び口頭試問にて判定する。

テキスト

PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入 編才藤 栄一 監修金原出版¥6,050

参考図書、その他

リハカルテ活用ハンドブック MEDICAL VIEW 社
理学療法・作業療法のSOAPノートマニュアル 協同医書出版
PT卒後ハンドブック 三輪書店

臨床実習（臨地実習）

作業療法概論

講師名 長辻 永喜（実務経験者）

学年 1 年 学期 前期 時間 30 時間 必修 1 単位

講義目標

- ①作業療法の定義や理論、作業の意味を理解し、作業を通じた人の捉え方、社会状況や法・制度、他職種連携を知り、作業療法の過程を学ぶ。
 - ②身体障害、精神障害、老年期、発達障害の各領域の対象者に対する作業療法の実際を学ぶ。
 - ③急性期から生活期までの作業療法の過程を学習する。
-

授業計画

- 第1回 作業療法士に求められる資質と適正
 - 第2回 作業療法の対象と活動分野・領域について
 - 第3回 作業療法の役割・機能について
 - 第4回 作業療法による生活支援
 - 第5回 作業療法の治療過程
 - 第6回 回復課程における作業療法の役割・機能(予防)
 - 第7回 回復過程における作業療法の役割・機能(回復期)
 - 第8回 回復過程における作業療法の役割・機能(維持期)
 - 第9回 世界における作業療法の動向・歴史について
 - 第10回 日本における作業療法の動向・歴史について
 - 第11回 世界の作業療法
 - 第12回 作業療法の管理運営について
 - 第13回 作業療法の教育・研究について
 - 第14回 作業療法の倫理
 - 第15回 日本作業療法士協会・倫理綱領について
-

履修上の注意

配布された資料の内容を確認し、復習すること

成績評価

小テスト（20%）、課題・レポート(20%)、定期試験(60%)で評価する

テキスト

矢谷令子著「標準作業療法学 作業療法学概論」
医学書院 4400円

参考図書、その他

適宜資料を配布する

講義を基本とする

基礎作業学

講師名 大松 慶子 (実務経験者)

学年 1 年 学期 後 期 時間 30 時間 必修 1 単位

講義目標 1.作業における基礎的な構成要素を理解できる
2.人が作業を行うことの意味、作業バランス、作業の機能について理解ができる。
3.対象者の気持ちを理解するきっかけをつかむ。

授業計画 第1回 作業とは何か、人 - 環境 - 作業モデルについて
第2回 作業の分類、形、階層、機能
第3回 作業の意味
第4回 ライフステージと作業
第5回 作業を実際にやってみる-1
第6回 作業を実際にやってみる-2
第7回 包括的作業分析 - 1
第8回 包括的作業分析 - 2
第9回 作業の意味を考える
第10回 作業的存在、作業的公正と不公正
第11回 障害受容について-グループワーク
第12回 障害受容について - 発表
第13回 当事者講話
第14回 事例を考える
第15回 授業のまとめ

履修上の注意 グループワークは積極的に参加すること。授業中のスマートフォン使用は許可した時以外禁止します。

成績評価 授業中の提出物10%、レポート50%、小テスト10%、定期試験30% で判断する。
レポート課題①家族の大事な作業を聞き取り、形、意味、機能を述べる。②包括的作業分析：自分にとって大事な作業について分析する。

テキスト

濱口豊太編集 標準作業療法学専門分野 基礎作業学 第3版 医学書院 4000円

参考図書、その他

吉川ひろみ著 「作業」って何だろう 作業科学入門 第2版 医歯薬出版株式会社

講義とグループワークを組み合わせる。

作業療法研究論

講師名 吉田 一平

(実務経験者)

学年 2 年 学期 前期 時間 30 時間 必修 1 単位

講義目標

1. 研究の意味を理解・必要性を理解する
 2. 研究の手法、エビデンスレベルを理解する
 3. 研究者倫理・倫理的配慮・利益相反について説明できる。
 4. 文献の検索方法を理解し、実践できる。
 5. 課題解決のための問題点の抽出、研究計画、実施の一連の過程を理解できる。
 6. 研究成果、統計資料、実践報告、有識者の提言等の文献の検索方法を理解し、実践できる。
 7. 基本的な研究方法の知識をもち、文献・統計資料等を読み、支援を受けながら成果を解釈できる。
-

授業計画

- 第1回 研究に関わる基礎知識 研究の意義
- 第2回 研究の種類
- 第3回 量的研究とは
- 第4回 統計解析の基礎知識
- 第5回 統計解析の基礎—Excelを使ってみよう
- 第6回 質的研究
- 第7回 事例研究
- 第8回 研究論文の発表と手続き／研究倫理
- 第9回 文献検索（演習）
- 第10回 文献検索（演習）
- 第11回 実際の論文を読んでみよう①
- 第12回 実際の論文を読んでみよう②
- 第13回 研究疑問の立て方と解決法
- 第14回 研究計画書作成①
- 第15回 研究計画書作成②
-

履修上の注意

- ・PC操作及び統計学の復習をしておいてください。
- ・質問は、研究室に在室していれば受け付けます。

成績評価

- ・レポート課題40%、定期試験50%、小テスト10%
-

テキスト

標準作業療法学（専門分野） 作業療法研究法第2
版 山田孝編集、医学書院

参考図書、その他

作業で創るエビデンス 作業療法士のための研究法の学び
かた 医学書院
PT・OTのための統計学入門 三輪書店

講義と演習

基礎作業学実習Ⅰ

講師名 吉田 一平 (実務経験者)

学年 2 年 学期 後 期 時間 30 時間 必修 1 単位

講義目標

- 1.さまざまな作業活動の体験をする(作品を完成させる)
- 2.「作業」の持つ特徴を分析できる
- 3.対象者に合わせて作業の段階付けができるようになる

授業計画

第1回 授業ガイダンス

第2回 実習1(毛糸・紐手芸)

第3回 実習1(毛糸・紐手芸)

第4回 実習2(ペーパークラフト)

第5回 実習2(ペーパークラフト)

第6回 実習3(木工細工)

第7回 実習3(木工細工)

第8回 実習4(革細工)

第9回 実習4(革細工)

第10回 実習5(革細工2)

第11回 実習5(革細工2)

第12回 実習6(作業分析)

第13回 実習6(作業分析)

第14回 まとめ(作業分析発表)

第15回 まとめ(作業分析発表)

履修上の注意

- ・次回の講義までに指定する教科書を読み、予習してきてください(60分程度)
- ・毎回の授業後に復習をしてください(30分程度)
- ・質問は、研究室に在室していれば受け付けます。

成績評価

・提出物(作品・レポート/小テスト) 50% 筆記試験 50%

テキスト

・濱口豊太編集 「標準作業療法学 専門分野 基礎作業学 第3版」医学書院
・長崎重信監修 「作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 作業学」メジカルビュー

参考図書、その他

講義・演習・実習

基礎作業学実習Ⅱ

講師名 西尾 恵 (実務経験者)

学年 3 年 学期 後 期 時間 30 時間 必修 1 単位

講義目標 1.さまざまな作業活動の体験をする(作品を完成させる)
2.「作業」の持つ特徴を分析できる
3.対象者に合わせて作業の段階付けができるようになる

授業計画 第1回 授業ガイダンス 物品チェック・整理
第2回 ウッドクラフト・モザイク①or軽スポーツ①
第3回 ウッドクラフト・モザイク②or軽スポーツ②
第4回 ウッドクラフト・モザイク③or軽スポーツ③
第5回 園芸①or手芸①
第6回 園芸②or手芸②
第7回 園芸③or手芸③
第8回 園芸④or手芸④
第9回 音楽を使った作業活動①
第10回 音楽を使った作業活動②
第11回 音楽を使った作業活動③
第12回 音楽を使った作業活動④
第13回 身体障害領域で使用する作業活動①
第14回 身体障害領域で使用する作業活動②
第15回 振り返り・作業分析・作業療法における「作業」の使い方

履修上の注意 1コマにつき遅刻1点、欠席3点を総合評価(100点満点)から減点する。再試験はレポート試験を1回のみ実施する。

成績評価 課題レポート70%・定期試験30%

テキスト

適宜紹介します。

参考図書、その他

長崎重信監修 「作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト
作業学」 メジカルビュー社
濱口豊太編集 「標準作業療法学 専門分野 基礎作業学 第3
版」医学書院

演習中心

作業療法評価学総論 I

講師名 長辻 永喜 (実務経験者)

学年 1 年 学期 後 期 時間 30 時間 必修 1 単位

講義目標 ①作業療法評価の目的と意義を理解する。
②評価の過程、各分野に必要な作業療法評価の基本的な知識を学ぶ。

授業計画

- 第1回 オリテ・作業療法と評価
- 第2回 記録・報告・効果判定
- 第3回 面接と観察
- 第4回 意識とバイタルサイン
- 第5回 身体機能評価 I
- 第6回 身体機能評価 II
- 第7回 ADL・QOL評価
- 第8回 疾患別評価 I
- 第9回 疾患別評価 II
- 第10回 精神機能評価 I
- 第11回 精神機能評価 II
- 第12回 発達過程評価
- 第13回 高齢期機能評価
- 第14回 就労期等の評価
- 第15回 まとめ

履修上の注意 配布された資料の内容を確認し、復習すること

成績評価 小テスト (20%)、課題・レポート(20%)、定期試験(60%)で評価する

テキスト

標準作業療法学 作業療法評価学 第3版 能登真一
他・編集 医学書院 6380円

参考図書、その他

適宜資料を配布する

講義と実技を行う

作業療法評価学総論Ⅱ

講師名 巽 絵理（実務経験者）大松 慶子（実務経験者）

学年 2 年 学期 前期 時間 30 時間 必修 1 単位

講義目標 ①作業療法評価の目的と意義を理解する。
②評価の過程、各分野で必要な作業療法評価の基本的・応用的な知識を深める。
③作業療法評価の分析解釈方法を疾患・障害別に学ぶ。

授業計画 第1回 精神の病と障害 身体疾患との相違（巽）
第2回 精神障害領域における評価のプロセスと作業療法の目的（巽）
第3回 「作業」を用いた評価の視点（巽）
第4回 構成作業を用いた評価と演習（巽）
第5回 投影作業を用いた評価と演習（巽）
第6回 生活史から対象者の理解を深める。情報収集のコツ（巽）
第7回 面接・観察評価の実際（巽）
第8回 発達過程における評価①（巽）
第9回 発達過程における評価②（巽）
第10回 介護保険制度の概要（大松）
第11回 カナダ作業遂行測定（大松）
第12回 カナダ作業遂行測定の実際（大松）
第13回 高齢期領域の評価（身体）（大松）
第14回 高齢期領域の評価（摂食嚥下）（大松）
第15回 高齢期領域の評価（認知・心理）と高齢期評価のまとめ（大松）

履修上の注意 配布された資料の内容を確認し、復習すること

成績評価 小テスト（20%）、課題・レポート（20%）、定期試験（60%）で評価する

テキスト 参考図書、その他

作業療法評価学 第3版 岩崎テル子 他・編集 医学書院 6380円

講義と実技を行う

作業療法評価学実習

講師名 西尾 恵（実務経験者） 湯川 喜裕（実務経験者）

学年 2 年 学期 前期 時間 60 時間 必修 2 単位

講義目標

- ① 身体障害作業療法評価の意義と目的について説明ができる。
- ② 面接・観察が実施できる。
- ③ 血圧脈拍測定が実施できる。
- ④ 関節可動域測定(上肢下肢)が実施できる。
- ⑤ 筋力検査(握力・ピンチ力・徒手筋力検査：上肢下肢)が実施できる。
- ⑥ 感覚・知覚検査が実施できる。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション、作業療法評価全般に共通する基本的態度と言動
- 第2回 評価前オリエンテーションの実際、療法士面接
- 第3回 評価の実際① 療法士面接OSCE
- 第4回 評価の実際① 療法士面接OSCE
- 第5回 評価の実際② 意識レベル(JCS、GCS)、脈拍と血圧の測定
- 第6回 評価の実際② 脈拍と血圧の測定
- 第7回 評価の実際② 脈拍と血圧の測定OSCE
- 第8回 評価の実際② 脈拍と血圧の測定OSCE
- 第9回 評価の実際③ 関節可動域測定(上肢)
- 第10回 評価の実際③ 関節可動域測定(上肢)
- 第11回 評価の実際③ 関節可動域測定(上肢) OSCE
- 第12回 評価の実際③ 関節可動域測定(上肢) OSCE
- 第13回 評価の実際④ 関節可動域測定(下肢)
- 第14回 評価の実際④ 関節可動域測定(下肢)
- 第15回 評価の実際④ 関節可動域測定OSCE(下肢)

履修上の注意

- ・身だしなみは臨床実習に適した服装(実習着)とします。靴と靴下は白色、爪は短く、髪は額を出し肩にかかる場合は結ぶ。その他の詳細は1回目講義中に教示します。
- ・OSCE(客観的臨床技能試験)は規定(時間・手順)を守って実施してください。規定以外のごとは無得点または減点の対象となります。

成績評価

授業中態度(実技試験・小テスト)(70%)、定期試験(30%)

テキスト

- ・ゴールドマスター作業療法学「作業療法評価学(第3版)」佐竹 勝、石井 文康、メジカルビュー社、¥6,380
- ・「PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編」第2版補訂版、才藤 栄一、金原出版、¥6,050

参考図書、その他

演習、実技

作業療法評価学実習

講師名 西尾 恵（実務経験者） 湯川 喜裕（実務経験者）

学年 2 年 学期 前期 時間 60 時間 必修 2 単位

講義目標

- ① 身体障害作業療法評価の意義と目的について説明ができる。
- ② 面接・観察が実施できる。
- ③ 血圧脈拍測定が実施できる。
- ④ 関節可動域測定(上肢下肢)が実施できる。
- ⑤ 筋力検査(握力・ピンチ力・徒手筋力検査：上肢下肢)が実施できる。
- ⑥ 感覚・知覚検査が実施できる。

授業計画

- 第16回 評価の実際④ 関節可動域測定OSCE（下肢）
- 第17回 評価の実際⑤ 筋力検査（握力・ピンチ力・徒手筋力検査）
- 第18回 評価の実際⑤ 徒手筋力検査（上肢）
- 第19回 評価の実際⑤ 徒手筋力検査（上肢）OSCE
- 第20回 評価の実際⑤ 徒手筋力検査（上肢）OSCE
- 第21回 評価の実際⑥ 徒手筋力検査（下肢）
- 第22回 評価の実際⑥ 徒手筋力検査（下肢）
- 第23回 評価の実際⑥ 徒手筋力検査（下肢）OSCE
- 第24回 評価の実際⑥ 徒手筋力検査（下肢）OSCE
- 第25回 評価の実際⑦ 感覚・知覚検査
- 第26回 評価の実際⑦ 感覚・知覚検査
- 第27回 評価の実際⑦ 感覚・知覚検査OSCE
- 第28回 評価の実際⑦ 感覚・知覚検査OSCE
- 第29回 まとめ
- 第30回 まとめ

履修上の注意

- ・身だしなみは臨床実習に適した服装（実習着）とします。靴と靴下は白色、爪は短く、髪は額を出し肩にかかる場合は結ぶ。その他の詳細は1回目講義中に教示します。
- ・OSCE（客観的臨床技能試験）は規定（時間・手順）を守って実施してください。規定以外のごとは無得点または減点の対象となります。

成績評価

授業中態度（実技試験・小テスト）（70%）、定期試験（30%）

テキスト

- ・ゴールドマスター作業療法学「作業療法評価学（第3版）」 佐竹 勝、石井 文康、メジカルビュー社、¥6,380
- ・「PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編」第2版補訂版、才藤 栄一、金原出版、¥6,050

参考図書、その他

演習、実技

作業療法評価学Ⅰ

講師名

湯川 喜裕

(実務経験者)

学年 2 年 学期 前期 時間 30 時間 必修 1 単位

講義目標

① 評価の意義と目的について説明できる② 意識レベルの評価について説明・体験できる。③ バイタルサイン測定について説明・体験できる。④ 機能形態計測（四肢長、周径など）について説明・体験できる。⑤ 関節可動域測定について説明・体験できる。⑥ 筋力検査（握力・ピンチ力・徒手筋力検査）について説明・体験できる。⑦ 反射及び筋緊張検査について説明・体験できる。⑧ 脳神経検査について説明・体験できる。⑨ 協調性検査について説明・体験できる。⑩ 上肢機能検査について説明・体験できる。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション 評価の意義と目的
- 第2回 意識レベルの評価の目的と方法（手順・判断・記録法）
- 第3回 意識レベルの評価の実際（小テスト）
- 第4回 バイタルサイン評価の目的と方法（手順・判断・記録法）
- 第5回 バイタルサインの評価の実際（小テスト）
- 第6回 機能形態計測（四肢長、周径など）の評価の目的と方法（手順・判断・記録法）
- 第7回 機能形態計測（四肢長、周径など）の実際（小テスト）
- 第8回 関節可動域測定の目的と方法（手順・判断・記録法）
- 第9回 関節可動域測定の実際（小テスト）
- 第10回 筋力検査（握力・ピンチ力・徒手筋力検査）の目的と方法（手順・判断・記録法）
- 第11回 筋力検査（握力・ピンチ力・徒手筋力検査）の実際（小テスト）
- 第12回 脳神経検査および反射、筋緊張検査の目的と方法（手順・判断・記録法）
- 第13回 脳神経検査および反射、筋緊張検査の実際（小テスト）
- 第14回 協調性検査の目的と方法
- 第15回 上肢機能検査の目的と方法（小テスト）

履修上の注意

作業療法評価学実習で実践するために必要な知識・評価の流れを理解するために必要な授業である。この授業で学んだことを実習の授業で実際に行動して、各評価・測定法の基礎的な技術の習得に励むこと。

成績評価

講義中の課題（30%）、定期試験（70%）

テキスト

- 作業療法評価学（第3版）-作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト- 佐竹 勝、石井 文康
株式会社メディカルビュー社 6380円
- PT・OTのための「臨床技能とOSCE」[ミューズ]と介助・検査測定編 第2版補訂版 金原出版

参考図書、その他

適宜配布する

講義は、講義形式で適宜演習を行う。

作業療法評価学Ⅱ

講師名 巽 絵理 (実務経験者)

学年 2 年 学期 後 期 時間 30 時間 必修 1 単位

講義目標

- 1.精神障害領域における基本的な評価の知識を得る
- 2.精神障害領域における基本的な評価が実施できる
- 3.評価を実施する際の基本的な留意点を理解できる
- 4.発達障害領域における基本的な評価の知識を得る
- 5.発達障害領域における基本的な評価が実施できる

授業計画

- 第1回 講義ガイダンス／観察評価とは？
- 第2回 各種検査の説明と実施 箱作り法説明
- 第3回 導入面接 マンウォッチング・SMSF・SFS-J
- 第4回 精神症状の評価並びに社会生活機能の評価
- 第5回 面接の実際（演習） 箱づくり法実施①
- 第6回 面接の実際（演習） 箱づくり法実施②
- 第7回 各種検査の振り返り①
- 第8回 各種検査の振り返り②
- 第9回 精神症状に関する基礎知識
- 第10回 精神疾患とその障害 - 統合失調症
- 第11回 精神疾患とその障害 - 気分障害
- 第12回 精神疾患とその障害 - 調べてみよう
- 第13回 精神医療の歴史・世界の動向、評価の実際
- 第14回 発達障害領域における評価の実際①（外部講師：大谷真寿美）
- 第15回 発達障害領域における評価の実際②（外部講師：大谷真寿美）

履修上の注意 1コマにつき遅刻1点、欠席3点を総合評価（100点満点）から減点する。再試験はレポート試験を1回のみ実施する。

成績評価 課題レポート50%、小テスト10%、定期試験40%で総合評価する。

テキスト

標準作業療法学 作業療法評価学 第3版 医学書院
精神疾患の理解と精神科作業療法 第3版 中央法規

参考図書、その他

生活を支援する精神障害作業療法-急性期から地域実践まで-医歯薬出版 精神疾患の理解と精神科作業療法 第3版 中央法規 医療面接法とコミュニケーションの取り方 メディカルビュー コミュニケーションスキルの磨き方 医歯薬出版

講義と演習

応用評価学演習

講師名 石橋 誠隆（実務経験者）

学年 3 年 学期 後 期 時間 30 時間 選択 1 単位

講義目標

1. 生活、生活障害の基本的な階層構造を知る
2. 各ユニットにおける問題構造の捉え方および目標設定の仕方を学ぶ
3. 各ユニットの理学療法プランと制約条件の基本的な設定が行える
4. 代表的な疾患における「型」としての臨床思考を身に着ける

授業計画

第1回 ガイダンス “生活”と“生活障害”を知る

第2回 障害構造を把握せよ

第3回 解決すべき課題の目標と介入方法を立案せよ

第4回 問題解決モデルを用いた統合解釈の基本的手順とは？

第5回 疾患別問題解決思考①大腿骨頸部骨折（回復期）
疾患の基本概念とユニットごとの特徴

第6回 疾患別問題解決思考①大腿骨頸部骨折（回復期）
症例を用いたグループワーク

第7回 疾患別問題解決思考②変形性膝関節症（生活期）
疾患の基本概念とユニットごとの特徴

第8回 疾患別問題解決思考②変形性膝関節症（生活期）
症例を用いたグループワーク

第9回 疾患別問題解決思考③被殻出血（急性期）
疾患の基本概念とユニットごとの特徴

第10回 疾患別問題解決思考③被殻出血（急性期）
症例を用いたグループワーク

第11回 疾患別問題解決思考④Parkinson病（中度障害期）
疾患の基本概念とユニットごとの特徴

第12回 疾患別問題解決思考④Parkinson病（中度障害期）
症例を用いたグループワーク

第13回 疾患別問題解決思考⑤慢性閉塞性肺疾患（回復期）
疾患の基本概念とユニットごとの特徴

第14回 疾患別問題解決思考⑤慢性閉塞性肺疾患（回復期）
症例を用いたグループワーク

第15回 まとめ

履修上の注意

臨床思考を身に着けるため、これまで学んだ理学療法の知識が必要となります。予習課題にもしっかりと取り組んでください。

成績評価

レポート（60%）、予習課題などの提出物（40%）で評価を行います

テキスト

問題解決モデルで見る理学療法臨床思考、加藤健太郎他編集、文光堂、3000円＋税

参考図書、その他

理学療法臨床診断学への志向ARIMAの問題解決モデル、有馬慶美著、文光堂、3600円＋税

グループワークを中心にアクティブラーニング型授業を行います

身体障害作業療法学Ⅰ

講師名 吉田 一平（実務経験者） 湯川 喜裕（実務経験者）

学年 2 年 学期 後 期 時間 30 時間 必修 1 単位

講義目標

- ・各脳血管疾患の作業療法の評価・治療・支援方法について説明できる。
- ・各脳血管疾患に関する作業療法士の関わり方（特徴・注意点）について説明できる。

授業計画

- 第1回 身体領域の作業療法学の基礎・オリエンテーション
- 第2回 関節可動域練習と筋力練習
- 第3回 感覚・知覚再教育と協調運動障害の治療
- 第4回 中枢神経疾患の作業療法の概要
- 第5回 脳血管障害に対する作業療法1（リスク管理・予後予測）
- 第6回 脳血管障害に対する作業療法2（運動・姿勢制御）
- 第7回 脳血管障害に対する作業療法3（運動・姿勢制御2）
- 第8回 脳血管障害に対する作業療法4（環境調整）
- 第9回 脳血管障害に対する作業療法5（EMS/IVES）
- 第10回 脳血管障害に対する作業療法6（治療計画）
- 第11回 中枢神経疾患に対する作業療法1（頭部外傷・脳腫瘍）
- 第12回 中枢神経疾患に対する作業療法2（パーキンソン病）
- 第13回 中枢神経疾患に対する作業療法3（SCD・ALS）
- 第14回 模擬症例検討
- 第15回 模擬症例検討・まとめ

履修上の注意

- ・次回の講義までに指定する教科書を読み、予習してください（60分程度）
- ・毎回の授業後に復習をしてください（30分程度）
- ・質問は、研究室に在室していれば受け付けます。

成績評価

定期試験 60% レポート20% 小テスト20%

テキスト 参考図書、その他

山口昇 他 編 「標準作業療法学 専門分野
身体機能作業療法学 第4版」医学書院

講義・演習

身体障害作業療法学Ⅱ

講師名 湯川 喜裕 (実務経験者)

学年 2 年 学期 後 期 時間 30 時間 必修 1 単位

講義目標

①高次脳機能障害（関連する障害）のメカニズムを理解し、ICFを用いて治療プログラム立案までの一連のプロセスを実践できる力を身につける。②神経心理学検査（画像の見方・観察・面接の方法なども含む）の実施ができる。③意識や注意障害の特徴を理解し、適切な評価や介入を実施することができる。④半側空間無視の特徴を理解し、適切な評価や介入を実施することができる。⑤認知の障害の特徴を理解し、適切な評価や援助を実施することができる。⑥失語症の特徴を理解し、適切な評価や援助を実施することができる。⑦記憶障害の特徴を理解し、適切な評価や介入を実施することができる。⑧遂行機能障害の特徴を理解し、適切な評価や介入を実施することができる。⑨失行症の特徴を理解し、適切な評価や介入を実施することができる。

授業計画

第1回	高次脳機能障害の概要	
第2回	神経心理学検査の紹介（画像の見方・観察・面接の方法など）	
第3回	意識障害と注意機能障害の特徴	（小テスト）
第4回	意識障害と注意機能障害の評価と介入	
第5回	半側空間無視および関連する障害の特徴	（小テス
第6回	半側空間無視および関連する障害の評価と介入	
第7回	認知の障害の特徴、および、評価と介入	（小テス
第8回	言語障害の特徴、および、評価と介入	（小テス
第9回	記憶障害の特徴	（小テス
第10回	記憶障害の評価と介入	★当事者講話（ゲストスピース
第11回	遂行機能障害および関連する障害の特徴	（小テス
第12回	遂行機能障害および関連する障害の評価と介入	
第13回	失行および関連する障害の特徴	（小テス
第14回	失行および関連する障害の評価と介入	
第15回	高次脳機能障害の統括	（小テス

履修上の注意

能動的に授業に参加するようにすること。
授業後は、復習をしっかりと行い知識の定着に努めること。

成績評価

小テスト30%、定期試験70%にて判断する。

テキスト

高次脳機能障害作業療法学(作業療法学 ゴールド・
マスター・テキスト) 長崎 重信 (株)メジカル
ビュー社 4840円

参考図書、その他

授業中に適宜紹介・配布する。

講義は講義形式と適宜演習を行う。

身体障害作業療法学実習Ⅰ

講師名 吉田 一平 (実務経験者)

学年 3 年 学期 前期 時間 30 時間 必修 1 単位

講義目標

運動器疾患に対する医学的基礎知識、作業療法の概要、及び各運動器疾患に対する作業療法の評価と治療、支援方法、ならびに各運動器疾患に関する作業療法士の関わり方（特徴・注意点）について学修するため・各運動器疾患の作業療法の評価・治療・支援方法について説明できる。・各運動器疾患に関する作業療法士の関わり方（特徴・注意点）について説明できる。

授業計画

- 第1回 運動器疾患の作業療法の概要・オリエンテーション
 - 第2回 骨・関節疾患（上肢）に対する作業療法1(概要・評価・計画)
 - 第3回 骨・関節疾患（上肢）に対する作業療法2(作業療法の実際、作業療法士の役割)
 - 第4回 手外科疾患に対する作業療法1(概要・評価・計画)
 - 第5回 手外科疾患に対する作業療法2(作業療法の実際、作業療法士の役割)
 - 第6回 骨・関節疾患（上肢）に対する作業療法まとめ
 - 第7回 骨・関節疾患（体幹・下肢）に対する作業療法1(概要・評価・計画)
 - 第8回 骨・関節疾患（体幹・下肢）に対する作業療法2(作業療法の実際、作業療法士の役割)
 - 第9回 脊髄損傷に対する作業療法1(概要・評価・計画)
 - 第10回 脊髄損傷に対する作業療法2(作業療法の実際、作業療法士の役割)
 - 第11回 関節リウマチ・熱傷に対する作業療法1
 - 第12回 関節リウマチ・熱傷に対する作業療法2
 - 第13回 模擬症例検討GW
 - 第14回 模擬症例検討GW発表（レポート）
 - 第15回 総括・まとめ
-

履修上の注意

- ・次回の講義までに指定する教科書を読み、予習してきてください（30分程度）
- ・毎回の授業後に復習をしてください（60分程度）

成績評価

定期試験 60% レポート20% 小テスト20%

テキスト

山口昇 他 編 「標準作業療法学 専門分野
身体機能作業療法学 第4版」医学書院

参考図書、その他

講義・演習・実習

身体障害作業療法学実習Ⅱ

講師名 湯川 喜裕（実務経験者） 長辻 永喜（実務経験者）

学年 3 年 学期 前期 時間 30 時間 必修 1 単位

講義目標

- ①疾患ごとの生活障害の特性について説明できる。
 - ②疾患ごとの生活障害の予後について説明できる。
 - ③疾患ごとの作業療法について説明・模擬実践できる
-

授業計画

- 第1回 オリエンテーション、概論（対象、作業療法の目的・方法・実践例、必要な知識と技能）
 - 第2回 バイタルサインとリスク管理、検査所見と身体所見の診方
 - 第3回 呼吸器疾患① 対象疾患とその特性の理解 (小テスト)
 - 第4回 呼吸器疾患② 対象疾患への評価と治療
 - 第5回 喀痰吸引の実技について (小テスト)
 - 第6回 心疾患① 対象疾患とその特性の理解 (小テスト/課題)
 - 第7回 心疾患② 対象疾患への評価と治療 (小テスト/課題)
 - 第8回 がんと人生の最終段階① 対象疾患とその特性の理解 (小テスト/課題)
 - 第9回 がんと人生の最終段階② 対象疾患への評価と治療 (小テスト/課題)
 - 第10回 サルコペニアとリハビリテーション栄養① 対象とその特性の理解
 - 第11回 サルコペニアとリハビリテーション栄養② 対象への評価と治療
 - 第12回 糖尿病・下部尿路機能障害 対象疾患とその特性の理解、評価と治療 (小テスト/課題)
 - 第13回 ケーススタディ① 事例から評価計画・統合と解釈・治療計画を立案
 - 第14回 ケーススタディ② 事例から評価計画・統合と解釈・治療計画を立案 (課題)
 - 第15回 ケーススタディ報告会、授業まとめ
-

履修上の注意

演習の際は、動きやすい服装を心掛けること。

成績評価

小テスト（20%）、講義中の課題（20%）、定期試験（60%）

テキスト

身体障害作業療法学2 内部疾患編 (PT・OTビジュアルテキスト)、小林隆司、羊土社、2750円

参考図書、その他

適宜配布する。

講義は演習形式と適宜講義を行う。

発達障害作業療法学Ⅰ

講師名 大谷 真寿美 (実務経験者)

学年 3 年 学期 前期 時間 30 時間 必修 1 単位

講義目標

- 1.面接、観察から評価、目標設定、治療の流れを理解する
- 2.脳性まひを中心とした肢体不自由児の疾患特性を理解しライフステージに合わせて障害像をイメージできる
- 3.特性に合わせた作業療法評価を選択・治療戦略を検討できる
- 4.子どもを取り巻く環境（児童発達支援、保育所、幼稚園、学校など）での子どもの支援を検討できる

授業計画

- 第1回 オリエンテーション 小児の作業療法の歴史と変遷
- 第2回 正常発達について①
- 第3回 正常発達について②
- 第4回 子どもと作業（遊び）について
- 第5回 作業療法の流れ
- 第6回 脳性麻痺について①
- 第7回 脳性麻痺について②
- 第8回 脳性麻痺について③
- 第9回 重症心身障害児者について
- 第10回 ダウン症候群など染色体異常について
- 第11回 筋ジストロフィー・骨関節疾患などについて
- 第12回 医療的ケア児について
- 第13回 家族支援について
- 第14回 児童発達支援、幼稚園、保育所、学校などでの生活について
- 第15回 学校卒業後の進路について

履修上の注意

積極的な学びとお互いに学び合い、自ら考える力を身に付けて頂きたい

成績評価

授業への取り組み・課題レポート50% 定期試験50%

テキスト

標準作業療法学 発達過程作業療法学 編集 加藤 寿宏 医学書院 4730円

参考図書、その他

作業療法ガイドブック 子どもと作業中心の実践 シルビ
アロジャー アン・ケネディ・バー編 塩津裕康 三浦正
樹監訳 クリエイツかもがわ 4500円

講義 ディスカッション 実習を組み合わせ実施

発達障害作業療法学Ⅱ

講師名 大谷 真寿美 (実務経験者)

学年 3 年 学期 後 期 時間 30 時間 必修 1 単位

講義目標

- 1.発達障害（狭義）領域の面接、観察から評価、目標設定、治療の流れを理解する
- 2.発達障害（狭義）の発達特性を理解し、ライフステージに合わせて障害像をイメージできる
- 3.発達障害（狭義）領域の特性に合わせた作業療法評価を選択・治療戦略を検討できる
- 4.発達障害（狭義）領域の子どもを取り巻く環境（児童発達支援、保育所、幼稚園、学校など）での子どもの支援を検討できる

授業計画

- 第1回 オリエンテーション 発達障害（狭義）領域の作業療法の歴史と変遷
- 第2回 発達障害（狭義）について
- 第3回 子どもと作業（遊び）について
- 第4回 自閉スペクトラム症児の臨床像と評価について①
- 第5回 自閉スペクトラム症児の臨床像と評価について②
- 第6回 注意欠如多動症の臨床像と評価について
- 第7回 限局性学習障害の臨床像と評価について
- 第8回 発達性協調運動症の臨床像と評価について
- 第9回 知的能力障害の臨床像と評価について
- 第10回 感覚統合の考え方について
- 第11回 TEACCHの考え方について
- 第12回 CO-OPの考え方について
- 第13回 家族支援について
- 第14回 児童発達支援、幼稚園、保育所や学校での生活について
- 第15回 学校卒業後の進路について

履修上の注意

積極的な学びとお互いに学び合い、自ら考える力を身に付けて頂きたい

成績評価

授業への取り組み・課題レポート50% 定期試験50%

テキスト

標準作業療法学 発達過程作業療法学 編集 加藤 寿宏 医学書院 4730円

参考図書、その他

作業療法ガイドブック 子どもと作業中心の実践 シルビ アロジャー アン・ケネディ・バー編 塩津裕康 三浦正 樹監訳 クリエイツかもがわ 4500円

講義 ディスカッション 実習を組み合わせ実施

精神障害作業療法学Ⅰ

講師名 巽 絵理（実務経験者）

学年 3 年 学期 前期 時間 30 時間 必修 1 単位

講義目標

- 1 精神障害の回復過程とその作業療法介入を理解できる
- 2 疾患の特徴を踏まえた作業療法介入・支援のあり方を理解できる
- 3 精神障害があることによる生活の困難さが推察できる
- 4 対象者に寄り添える対人スキルを獲得する
- 5 精神障害領域における介入法を修得する

授業計画

- 第1回 精神障害の回復過程と作業療法介入の実際①
- 第2回 精神障害の回復過程と作業療法介入の実際②
- 第3回 精神障害の回復過程と作業療法介入の実際③
- 第4回 疾患別 作業療法介入・支援－統合失調症1
- 第5回 疾患別 作業療法介入・支援－統合失調症2
- 第6回 疾患別 作業療法介入・支援－統合失調症3
- 第7回 疾患別 作業療法介入・支援－気分（感情）障害1
- 第8回 疾患別 作業療法介入・支援－気分（感情）障害2
- 第9回 疾患別 作業療法介入・支援－その他
- 第10回 作業療法介入の実際－演習説明・練習・準備
- 第11回 作業療法介入の実際－支援の演習1（当事者の協力）
- 第12回 作業療法介入の実際－支援の演習2（当事者の協力）
- 第13回 作業療法介入の実際－振り返り
- 第14回 精神障害の特徴とは？生きづらさ・理解のしづらさ
- 第15回 わが国の精神保健領域支援における課題と作業療法

履修上の注意

1コマあたり遅刻は-1点、欠席は-3点を総合得点（100点）から減点する。

成績評価

筆記試験60%、レポート40%で総合評価する。

テキスト

精神疾患の理解と精神科作業療法 第3版（中央法規）

参考図書、その他

標準作業療法学 精神機能作業療法学 第3版 医学書院 生活を支援する精神障害
作業療法-急性期から地域実践まで- 医歯薬出版 標準作業療法学 作業療法評価学
第3版 医学書院 精神科作業療法の理論と技術 メディカルビュー 標準理学療法学・
作業療法学 精神医学 医学書院

講義と演習

精神障害作業療法学Ⅱ

講師名 巽 絵理（実務経験者）

学年 3 年 学期 後 期 時間 30 時間 必修 1 単位

講義目標

1. 評価結果を整理統合し、課題を焦点化できる
2. 事例を通して作業療法評価及び介入計画立案ができる
3. 評価結果・介入計画書・介入実施後の記録作成ができる
4. グループ活動の計画立案・実施ができる
5. 自己あるいはグループによる討議結果を適切に他者に伝える事ができる

授業計画

- 第1回 講義ガイダンス
- 第2回 事例検討①
- 第3回 事例検討②
- 第4回 治療プログラム立案①
- 第5回 治療プログラム立案②
- 第6回 治療プログラム実施① 青年：対人関係
- 第7回 治療プログラム実施② 青年：認知機能
- 第8回 治療プログラム実施③ 青年：生活機能
- 第9回 治療プログラム実施④ 高齢：認知機能
- 第10回 治療プログラム実施⑤ 高齢：身体機能
- 第11回 精神機能作業療法の総合演習①
- 第12回 精神機能作業療法の総合演習②
- 第13回 精神機能作業療法の総合演習③
- 第14回 精神機能作業療法の総合演習④
- 第15回 総括

履修上の注意

1コマあたり遅刻は-1点、欠席は-3点を総合得点（100点）から減点する。

成績評価

演習及びグループ討議への参加態度20%（出席・積極性・役割責任）、レポート40%、筆記試験40%で総合評価する。

テキスト

指定なし

参考図書、その他

標準作業療法学 作業療法臨床実習とケーススタディー 第2版 医学書院 標準作業療法学 作業療法評価学 第3版 医学書院 標準作業療法学 精神機能作業療法学 第3版 医学書院 精神疾患の理解と精神科作業療法 第3版 中央法規 生活を支援する精神障害作業療法-急性期から地域実践まで- 医歯薬出版 標準理学療法学・作業療法学 精神医学 医学書院

演習・実習

老年期障害作業療法学Ⅰ

講師名 大松 慶子 (実務経験者)

学年 3 年 学期 前期 時間 30 時間 必修 1 単位

講義目標

- 1.高齢社会到来の背景と高齢者の現状を説明できる
 - 2.高齢期障害の一般的特徴を説明できる
 - 3.高齢期の生理機能の変化、高齢者に多い症候（転倒、排尿障害、心疾患、肺疾患、認知症、パーキンソン症候群、廃用症候群など）と作業療法の評価・介入方法を説明できる。
-

授業計画

- 第1回 高齢社会と高齢期の課題
 - 第2回 社会制度-1
 - 第3回 社会制度-2
 - 第4回 高齢期の生理的・身体的特徴と老年症候群
 - 第5回 高齢期の精神的・心理的特徴と作業療法で留意すべきこと
 - 第6回 高齢期に多い疾患
 - 第7回 高齢期作業療法の評価、実践過程と病期に応じた治療・援助内容の違い
 - 第8回 一般高齢者に対する介護予防の作業療法
 - 第9回 地域在住高齢者に対する評価の準備
 - 第10回 地域在住高齢者に対する評価-1
 - 第11回 地域在住高齢者に対する評価-2
 - 第12回 評価のまとめと作業療法目標、プログラム作成
 - 第13回 発表-1
 - 第14回 発表-2
 - 第15回 前期内容のまとめ
-

履修上の注意

授業には積極的に参加すること。
地域の方が来られた際には、礼節に十分留意すること。
指示した時以外の授業中のスマートフォン使用は禁止する。

成績評価

講義中の課題提出物40%、小テスト10%、定期試験50%で判断する。

テキスト

標準作業療法学専門分野 高齢期作業療法学 第3版 松房利憲、新井健五編 医学書院 4400円

参考図書、その他

講義中に提示する。

講義とグループワークを組み合わせで行う。

老年期障害作業療法学Ⅱ

講師名 大松 慶子 (実務経験者)

学年 3 年 学期 後 期 時間 60 時間 必修 2 単位

講義目標

1. 認知症に対する病態理解、症状および一般的評価、作業療法の介入方法を理解し、説明することができる
 2. 認知症に対する作業療法士の役割、作業療法プロセス、作業療法治療理論、家族や多職種との連携について説明することができる
 3. 認知症の人を含む高齢者の作業療法で用いる作業とレクリエーションの実際を学ぶ
-

授業計画

- 第1回 老年期のこころ
- 第2回 人間作業モデルについて-1
老年期OTで用いるレクリエーションとその段階づけ、歌唱-1
- 第3回 高齢社会と認知症
- 第4回 人間作業モデルについて-2
老年期OTで用いるレクリエーションとその段階づけ、歌唱-2
- 第5回 認知症の定義と分類、症状
- 第6回 人間作業モデルについて-3
老年期OTで用いるレクリエーションとその段階づけ、歌唱-3
- 第7回 認知症の人のとらえかた、コミュニケーション-1
- 第8回 人間作業モデルについて-4
老年期OTで用いるレクリエーションとその段階づけ、歌唱-4
- 第9回 認知症の人のとらえかた、コミュニケーション-2
- 第10回 人間作業モデルについて-5
老年期OTで用いるレクリエーションとその段階づけ、歌唱-5
- 第11回 薬物療法と非薬物療法
- 第12回 認知症グループホーム見学-1
- 第13回 認知症グループホーム見学-2
- 第14回 認知症グループホーム見学-3
- 第15回 認知症グループホーム見学-4
-

履修上の注意

授業や課題には積極的に参加すること

成績評価

小テスト10% 授業中の課題提出物40% 定期試験50%で判断する。

テキスト

認知症の作業療法 第2版 ソーシャルインクルージョンをめざして 小川敬之、竹田徳則編 医歯薬出版株式会社 5170円

参考図書、その他

授業中に提示する

講義とグループワークを組み合わせる。

老年期障害作業療法学Ⅱ

講師名 大松 慶子 (実務経験者)

学年 3 年 学期 後 期 時間 60 時間 必修 2 単位

講義目標

1. 認知症に対する病態理解、症状および一般的評価、作業療法の介入方法を理解し、説明することができる
2. 認知症に対する作業療法士の役割、作業療法プロセス、作業療法治療理論、家族や多職種との連携について説明することができる
3. 認知症の人を含む高齢者の作業療法で用いる作業とレクリエーションの実際を学ぶ

授業計画

第16回 認知症グループホーム見学の振り返り

第17回 クリスマス会

第18回 クリスマス会と反省会

第19回 認知症の人に対する評価法-1

第20回 人間作業モデルについて-6
老年期OTで用いる作業と段階づけ-1

第21回 認知症の人に対する評価法-2

第22回 人間作業モデルについて-7
老年期OTで用いる作業と段階づけ-2

第23回 認知症の人に対する評価法-3

第24回 人間作業モデルについて-8
老年期OTで用いる作業と段階づけ-3

第25回 認知症の人に対する支援-1

第26回 人間作業モデルについて-9
老年期OTで用いる作業と段階づけ-4

第27回 認知症の人に対する支援-2

第28回 人間作業モデルについて-10
老年期OTで用いる作業と段階づけ-5

第29回 認知症の人の事例

第30回 まとめ

履修上の注意 授業や課題には積極的に参加すること

成績評価 小テスト10% 授業中の課題提出物40% 定期試験50%で判断する。

テキスト

認知症の作業療法 第2版 ソーシャルインクルージョンをめざして 小川敬之、竹田徳則編 医歯薬出版株式会社 5170円

参考図書、その他

授業中に提示する

講義とグループワークを組み合わせる。

日常生活活動学

講師名 西尾 恵（実務経験者） 吉田 一平（実務経験者）

学年 2 年 学期 後 期 時間 60 時間 必修 2 単位

講義目標

- ①日常生活活動（ADL）の概要（定義・歴史・関連法規）を説明できる。
 - ②日本で使用されているADL評価を説明できる。
 - ③代表的なADL評価（Barthel Index、Functional Independence Measure）を実施できる。
 - ④基本動作の種類、手順を説明できる。
 - ⑤応用動作の種類、手順を説明できる。
 - ⑥基本応用動作の介助の手順を説明、実施できる。
-

授業計画

- 第1回 オリエンテーション、日常生活活動（ADL）と作業療法の関係
- 第2回 関連法規、作業療法士が使うADL評価の目的と各種評価法
- 第3回 ADL評価法① Barthel Indexの理解と実践
- 第4回 ADL評価法① Barthel Indexの理解と実践
- 第5回 日常生活活動（ADL）の評価法② Functional Independence Measureの理解と実践
- 第6回 日常生活活動（ADL）の評価法② Functional Independence Measureの理解と実践
- 第7回 日常生活活動（ADL）の評価法② Functional Independence Measureの理解と実践
- 第8回 日常生活活動（ADL）の評価法② Functional Independence Measureの理解と実践
- 第9回 基本動作（起居・座位立位保持・立ち座り・移乗・車椅子駆動）の理解と実践
- 第10回 基本動作（起居・座位立位保持・立ち座り・移乗・車椅子駆動）の理解と実践
- 第11回 基本動作（起居・座位立位保持・立ち座り・移乗・車椅子駆動）の理解と実践
- 第12回 基本動作（起居・座位立位保持・立ち座り・移乗・車椅子駆動）の理解と実践
- 第13回 1～12回のまとめ
- 第14回 1～12回のまとめ
- 第15回 応用動作（食事・更衣・整容・排泄・入浴）の理解と実践
-

履修上の注意

- ・演習課題実施時は実習着を着用して行います。（未着用の場合は、採点対象外となります）

成績評価

- ・小テスト（20%）、演習課題（20%）、定期試験（60%）
-

テキスト

- ・ゴールドマスターテキスト日常生活活動学（ADL）、長崎重信・木之瀬隆、メジカルビュー社 ￥4620
- ・PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入 編、才藤 栄一、金原出版 ￥6050

参考図書、その他

講義、演習

日常生活活動学

講師名 西尾 恵（実務経験者） 吉田 一平（実務経験者）

学年 2 年 学期 後 期 時間 60 時間 必修 2 単位

講義目標

- ①日常生活活動（ADL）の概要（定義・歴史・関連法規）を説明できる。
 - ②日本で使用されているADL評価を説明できる。
 - ③代表的なADL評価（Barthel Index、Functional Independence Measure）を実施できる。
 - ④基本動作の種類、手順を説明できる。
 - ⑤応用動作の種類、手順を説明できる。
 - ⑥基本応用動作の介助の手順を説明、実施できる。
-

授業計画

- 第16回 応用動作（食事・更衣・整容・排泄・入浴）の理解と実践
- 第17回 応用動作（食事・更衣・整容・排泄・入浴）の理解と実践
- 第18回 応用動作（食事・更衣・整容・排泄・入浴）の理解と実践
- 第19回 応用動作（食事・更衣・整容・排泄・入浴）の理解と実践
- 第20回 応用動作（食事・更衣・整容・排泄・入浴）の理解と実践
- 第21回 応用動作（食事・更衣・整容・排泄・入浴）の理解と実践
- 第22回 応用動作（食事・更衣・整容・排泄・入浴）の理解と実践
- 第23回 応用動作（食事・更衣・整容・排泄・入浴）の理解と実践
- 第24回 応用動作（食事・更衣・整容・排泄・入浴）の理解と実践
- 第25回 ADL総合演習1
- 第26回 ADL総合演習1
- 第27回 ADL総合演習2
- 第28回 ADL総合演習2
- 第29回 総括・まとめ
- 第30回 総括・まとめ
-

履修上の注意

- ・演習課題実施時は実習着を着用して行います。（未着用の場合は、採点対象外となります）

成績評価

- ・小テスト（20%）、演習課題（20%）、定期試験（60%）
-

テキスト

- ・ゴールドマスターテキスト日常生活活動学（ADL）、長崎重信・木之瀬隆、メジカルビュー社 ￥4620
- ・PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入 編、才藤 栄一、金原出版 ￥6050

参考図書、その他

講義、演習

日常生活活動学実習Ⅰ

講師名 西尾 恵（実務経験者） 吉田 一平（実務経験者）

学年 3 年 学期 前期 時間 60 時間 必修 2 単位

講義目標

- ・日常生活活動における作業別の支援について説明・模擬実践できる。
- ・手段的日常生活動作における作業別の支援について説明・模擬実践できる。

授業計画

(1回2時間、1～15回迄同様)

第1回 オリエンテーション

第2回 オリエンテーション

第3回 課外活動：バリアフリー展参加

第4回 課外活動：バリアフリー展参加

第5回 課外活動：バリアフリー展参加

第6回 課題活動振り返り

第7回 課題活動振り返り（発表）

第8回 課題活動振り返り（発表）

第9回 起居・移乗動作

第10回 起居・移乗動作

第11回 疾患別ADL①

第12回 疾患別ADL①

第13回 疾患別ADL②

第14回 疾患別ADL②

第15回 疾患別ADL③

履修上の注意

- ・次回の講義までに指定する教科書を読み、予習してください（60分程度）
- ・毎回の授業後に復習をしてください（30分程度）
- ・質問は、研究室に在室していれば受け付けます。

成績評価

授業中の態度（実技試験・小テスト）50% 定期試験50%

テキスト

- ・ゴールドマスター作業療法学 日常生活活動学（ADL）
第2版 メジカルビュー社 税込 4,620円
- ・PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入 編、才藤 栄一監、金原出版、¥6,050

参考図書、その他

- ・演習が中心となります。
-

日常生活活動学実習Ⅰ

講師名 西尾 恵（実務経験者） 吉田 一平（実務経験者）

学年 3 年 学期 前期 時間 60 時間 必修 2 単位

講義目標

- ・日常生活活動における作業別の支援について説明・模擬実践できる。
- ・手段的日常生活動作における作業別の支援について説明・模擬実践できる。

授業計画

第16回 疾患別ADL③

(1回2時間、1～15回迄同様)

第17回 疾患別ADLまとめ（演習）

第18回 疾患別ADLまとめ（演習）

第19回 IADL概要

第20回 IADL概要

第21回 IADL演習

第22回 IADL演習

第23回 IADL演習・発表

第24回 IADL演習・発表

第25回 模擬症例検討（ADL・IADLワーク）①

第26回 模擬症例検討（ADL・IADLワーク）①

第27回 模擬症例検討（ADL・IADLワーク）②

第28回 模擬症例検討（ADL・IADLワーク）②

第29回 ワーク発表・まとめ

第30回 ワーク発表・まとめ

履修上の注意

- ・次回の講義までに指定する教科書を読み、予習してきてください（60分程度）
- ・毎回の授業後に復習をしてください（30分程度）
- ・質問は、研究室に在室していれば受け付けます。

成績評価

授業中の態度（実技試験・小テスト）50% 定期試験50%

テキスト

- ・ゴールドマスター作業療法学 日常生活活動学（ADL）第2版 メジカルビュー社 税込 4,620円
- ・PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入 編、才藤 栄一監、金原出版、¥6,050

参考図書、その他

- ・演習が中心となります。
-

日常生活活動学実習Ⅱ

講師名 西尾 恵 (実務経験者)

学年 3 年 学期 前期 時間 30 時間 必修 1 単位

講義目標

- ①日常生活活動（ADL）の構成要素を説明できる。
- ②日常生活活動（ADL）の工程分析の方法を説明できる。
- ③日常生活活動（ADL）と心身機能面の関係性を説明できる。
- ④日常生活活動（ADL）能力向上のための治療計画立案方法を説明できる。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 日常生活活動（ADL）の構成要素
- 第3回 日常生活活動（ADL）における姿勢分析
- 第4回 日常生活活動（ADL）における姿勢分析
- 第5回 日常生活活動（ADL）における基本動作の工程分析
- 第6回 日常生活活動（ADL）における基本動作の工程分析
- 第7回 日常生活活動（ADL）における基本動作の工程分析
- 第8回 日常生活活動（ADL）における基本動作の工程分析
- 第9回 日常生活活動（ADL）における応用動作の工程分析
- 第10回 日常生活活動（ADL）における応用動作の工程分析
- 第11回 日常生活活動（ADL）における応用動作の工程分析
- 第12回 日常生活活動（ADL）における応用動作の工程分析
- 第13回 症例検討 日常生活活動（ADL）向上のための治療計画立案
- 第14回 症例検討 日常生活活動（ADL）向上のための治療計画立案
- 第15回 症例検討 日常生活活動（ADL）向上のための治療計画立案、授業のまとめ

履修上の注意

- ・1年次2年次で学修した知識を日常生活活動（ADL）と結びつける意識をもって受講してください。
- ・自分で考えて計画・記録する作業を繰り返します。正しい経験をしながらADLと機能の関連付ける思考を身に着けていきましょう。

成績評価

授業内課題の状況（40%）、定期試験（60%）

テキスト

- ・新版 日常生活活動（ADL）第2版 評価と支援の実際, 医歯薬出版株式会社 伊藤利之・江藤文夫編, ¥7,480
- ・動作分析 臨床活用講座—バイオメカニクスに基づく臨床推論の実際, 石井慎一郎著, メジカルビュー社, ¥6,160

参考図書, その他

- ・都度、資料を配布します。一つのファイルにまとめて保管してください。
- ・日常生活活動（ADL）分野の国家試験過去問題を配布します。繰り返し解いてください。

演習、グループ討議

障害者スポーツ演習

講師名 森本 信三 (実務経験者)

学年 3 年 学期 前期 時間 30 時間 選択 1 単位

講義目標

1. 障がい者スポーツの意義と理念を理解できる
 2. 障がい者スポーツの現状と指導者育成制度について説明できる
 3. スポーツの喜びや楽しさを重視したスポーツの導入を支援できるような知識と技術を身につける
-

授業計画

- 第1回 障がい者スポーツの意義と理念
 - 第2回 障がい者スポーツの現状
 - 第3回 障がい者スポーツの指導者育成制度
 - 第4回 障がい者スポーツの支援方法
 - 第5回 障がい者スポーツの支援方法
 - 第6回 障がい者スポーツの実際 - 身体障害①
 - 第7回 障がい者スポーツの実際 - 身体障害②
 - 第8回 障がい者スポーツの実際 - 身体障害③
 - 第9回 障がい者スポーツの実際 - 身体障害④
 - 第10回 障がい者スポーツの実際 - 知的障害・精神障害①
 - 第11回 障がい者スポーツの実際 - 知的障害・精神障害②
 - 第12回 障がい者スポーツの実際 - 知的障害・精神障害③
 - 第13回 障がい者スポーツの実際 - 知的障害・精神障害④
 - 第14回 障害者スポーツの現状と課題①
 - 第15回 障害者スポーツの現状と課題②
-

履修上の注意

学外実習は、土日など時間外の場合があります。
・新型コロナウイルス感染症の状況によっては、授業計画や評価方法等を変更する可能性がある。

成績評価

実習態度50% レポート課題50%

テキスト

適宜紹介

参考図書、その他

適宜紹介

講義・演習・実習

高次脳機能障害の治療法

講師名 湯川 喜裕 (実務経験者)

学年 3 年 学期 後 期 時間 30 時間 選択 1 単位

講義目標

①高次脳機能障害患者の病巣や症状について説明することができる。 ②高次脳機能障害患者の生活状況について説明することができる。 ③高次脳機能障害患者に対する多職種連携の必要性について説明することができる。 ④各症状に対するスクリーニング検査を実施することができる。 ⑤各症状に対するリハビリテーションの介入の意義や注意点などを説明することができる。

授業計画

- 第1回 高次脳機能障害の概要、授業オリエンテーション
 - 第2回 高次脳機能障害者の生活現状、および、地域における高次脳機能障害者支援の実際
 - 第3回 高次脳機能障害患者の支援と介入方法 グループワーク・発表
 - 第4回 意識・注意機能の評価の実際と解釈・注意障害におけるリハビリテーション中の注意事項
 - 第5回 注意障害の特徴と評価、リハビリテーション グループワーク・発表
 - 第6回 半側空間無視の評価の実際と解釈・半側空間無視におけるリハビリテーション中の注意事項
 - 第7回 半側空間無視の特徴と評価、リハビリテーション グループワーク・発表
 - 第8回 記憶の評価の実際と解釈・記憶障害におけるリハビリテーション中の注意事項
 - 第9回 記憶障害の特徴と評価、リハビリテーション グループワーク・発表
 - 第10回 遂行機能の評価の実際と解釈・遂行機能障害におけるリハビリテーション中の注意事項
 - 第11回 遂行機能障害の特徴と評価、リハビリテーション グループワーク・発表
 - 第12回 行為の評価の実際と解釈・失行におけるリハビリテーション中の注意事項
 - 第13回 失行の特徴と評価、リハビリテーション グループワーク・発表
 - 第14回 言語の評価の実際と解釈・失語におけるリハビリテーション中の注意事項
 - 第15回 高次脳機能障害の治療法の統括 グループワーク・発表
-

履修上の注意

能動的に授業やグループワークに参加するようにすること。
授業後は、復習をしっかりと行い知識の定着に努めること。

成績評価

グループワーク課題やその発表内容について40%、定期試験60%で判定する。

テキスト

高次脳機能障害作業療法学(作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト) 長崎 重信 (株)メジカルビュー社 4840円

参考図書、その他

適宜配布する。

講義とグループワークを中心に実施する。

認知症の理解とその支援

講師名 大松 慶子 (実務経験者)

学年 3 年 学期 後 期 時間 30 時間 選択 1 単位

講義目標 1.認知症の疫学とその分類、症状と、認知症の人を取り巻く社会背景と支援方法を理解し、説明することができる 2.認知症の人のその人らしさを尊重した専門職としての支援方法を考えることができる 3.認知症の人のその人らしさを尊重した専門職としての支援する態度を述べるができる

授業計画

- 第1回 認知症の定義と症状
- 第2回 疾患の特徴ー（軽度認知障害、アルツハイマー病、レビー小体型認知症）
- 第3回 国の認知症対策
- 第4回 治療の方法（薬物療法、非薬物療法）
- 第5回 評価の手順と考え方-1
- 第6回 評価の手順と考え方-2
- 第7回 支援の枠組み、心身機能に対する支援（認知リハビリテーション、学習療法）
- 第8回 心身機能に対する支援（運動療法、言語リハビリテーション）
- 第9回 活動と参加に対する支援（アクティビティ、ADL・IADL）
- 第10回 活動と参加に対する支援（コミュニケーション支援、回想法）
- 第11回 活動と参加に対する支援（レクリエーション、芸術・刺激療法）
- 第12回 環境に対する支援（介護者への支援、ピアサポート、制度利用）
- 第13回 社会の中で生きる認知症の人たち
- 第14回 認知症の人に対する支援の事例
- 第15回 まとめ

履修上の注意 授業内容を生かした提出物やレポートを作成すること。

成績評価 授業中に指示した提出物50%、課題レポート50% で判断する。
課題①パーソンセンタードケアとはどのようなものか。その考え方、対応方法、具体例2つを述べなさい。②授業でとりあげた認知症の人に対する支援方法のうち1つについて、その考え方、実施手順、効果、具体例2つを述べなさい。

テキスト

今村徹・能登真一 編 QOLを高める 認知症リハビリテーションハンドブック 医学書院
4,180円

参考図書、その他

授業中に提示する

講義と演習を組み合わせる。

レクリエーション活動演習

講師名 巽 絵理 (実務経験者)

学年 3 年 学期 後 期 時間 30 時間 選択 1 単位

講義目標 1.レクリエーションの実施の目的と方法を説明できる
2.レクリエーションの計画立案・実施ができる
3.レクリエーションの実施後の振り返りを行い、内容の修正ができる

授業計画 第1回 ガイダンス
第2回 レクリエーションの目的と実施方法
第3回 レクリエーションの目的と効果、その実際
第4回 レクリエーションの企画①
第5回 レクリエーションの企画②
第6回 レクリエーションの企画③
第7回 レクリエーションの準備①
第8回 レクリエーションの準備②
第9回 レクリエーションの準備③
第10回 レクリエーションの準備④
第11回 レクリエーションの実施①
第12回 レクリエーションの実施②
第13回 レクリエーションの実施③
第14回 レクリエーションの実施④
第15回 振り返り

履修上の注意 講義時間は時間割通りにはならない場合があります。
レクリエーションの実施場所は、学生自身（グループ）で検討し、調整することも課題内容とします。

成績評価 授業への取り組み・実習態度（積極性・協調性・コミュニケーション）60%、課題レポート（企画書・報告書）40%

テキスト

適宜紹介

参考図書、その他

適宜紹介

演習

地域作業療法学Ⅰ

講師名 長辻 永喜（実務経験者） 巽 絵理（実務経験者）

学年 2 年 学期 後 期 時間 30 時間 必修 1 単位

講義目標 1.地域リハビリテーション・職業リハビリテーションの概念と歴史を理解する
2.地域リハビリテーション・職業リハビリテーションに必要な様々な社会保障制度を理解する 3.
地域リハビリテーション・職業リハビリテーションにおける作業療法士の役割を理解する
4.地域・職業（産業）作業療法に必要な疾患の知識、評価・介入の技術およびリスク管理を理解する

授業計画

第1回 「地域」とは？ 「地域」で暮らす支援とは？（長辻）

第2回 在宅支援・訪問リハビリテーション①（長辻）

第3回 在宅支援・訪問リハビリテーション②（長辻）

第4回 介護保険制度における作業療法の役割（長辻） （小テスト）

第5回 住宅改修の方法と制度①（長辻）

第6回 住宅改修の方法と制度②（長辻）

第7回 「働く」ことの支援（巽） （小テスト）

第8回 職業リハビリテーション（巽）

第9回 職リハ領域における評価・検査の実際① 職業適性検査（巽）

第10回 職リハ領域における評価・検査の実際② レディネステスト（巽）

第11回 障害者雇用促進法（巽）

第12回 障害者雇用の現状と課題（巽） （小テスト）

第13回 福祉的就労について（巽）

第14回 福祉的就労の現状と課題（巽）

第15回 「地域」で生活することの支援の重要性（巽） （小テスト）

履修上の注意 1コマにつき遅刻1点、欠席3点を総合評価（100点満点）から減点する。再試験はレポート試験を1回のみ実施する。

成績評価 課題レポート40% 小テスト20% 定期試験40% で総合評価する

テキスト

資料を配布

参考図書、その他

標準作業療法学 地域作業療法学 第3版 医学書院
職業リハビリテーション学—キャリア発達と社会参加に向けた就労支援体系 改訂第2版 協同医書出版社

講義と演習

地域作業療法学Ⅱ

講師名 大松 慶子 (実務経験者)

学年 3 年 学期 前期 時間 30 時間 必修 1 単位

講義目標

1. 地域作業療法実施に必要な法制度を理解する。
 2. 作業療法の実践モデルである生活行為向上マネジメント (MTDLP) を説明することができる。
 3. MTDLPの視点を生かした事例を考えることができる。
 4. 講義での体験を通じて、多様な地域活動の実際と作業療法士の役割を理解し、説明することができる
 5. MTDLPと地域の様々な活動を総合的に学習し、地域における作業療法について自分なりの考えを述べることができる
-

授業計画

- 第1回 地域で暮らすこととは
 - 第2回 在宅生活で使用する福祉用具 (バリアフリー展)
 - 第3回 介護保険制度の復習-1
 - 第4回 介護保険制度の復習-2
 - 第5回 障害者総合支援法について
 - 第6回 ICFについて
 - 第7回 生活行為向上マネジメントとは
 - 第8回 生活行為向上マネジメントの使い方
 - 第9回 シートを使ってみよう-1
 - 第10回 シートを使ってみよう-2
 - 第11回 事例を考える-1
 - 第12回 事例を考える-2
 - 第13回 様々な場面でのMTDLP使用の実際
 - 第14回 地域でのMTDLPの使用
 - 第15回 まとめ
-

履修上の注意

授業には積極的に参加すること。

成績評価

講義中の課題40% 小テスト10% 定期試験50%で判断する。 欠席は-3点、遅刻・早退は-1点とする。

テキスト

事例で学ぶ生活行為向上マネジメント
一般社団法人日本作業療法士協会 編著 医歯薬出版株式会社 4,000円

参考図書、その他

標準作業療法学専門分野 地域作業療法学 第3版 大熊明、加藤朋子編 医学書院

講義およびグループワークで行う。

地域作業療法学実習

講師名 巽絵理 長辻永喜 大松慶子 湯川喜裕 吉田一平 西尾恵
(全員実務経験者)

学年 3 年 学期 後 期 時間 60 時間 必修 2 単位

講義目標

- 1.実習施設における作業療法士の業務の流れを説明できる。
- 2.実習施設における作業療法士の役割を説明できる。
- 3.職員や作業療法対象者に対し、礼節のある言葉遣いや態度をとることができる。
- 4.作業療法場面について指導者の説明を聞き、記録および説明ができる。
- 5.施設を利用する対象者に対する関心を持ち、積極的に関わることができる。
- 6.地域における作業療法士の役割を考え、述べるることができる。

授業計画

- 1.実習オリエンテーション 実習内容の理解
- 2.臨地実習
- 3.実習ポストセミナー 実習報告 見学実習後の知識・技能・態度を評価する

履修上の注意

実習並びに学内セミナーは全日出席を原則とし、理由なき欠席や遅刻・早退は単位を認定しない。施設での実習期間のみならず、学内セミナーも実習期間である。自らの発表のみならず、他学生の発表からも学ぶ姿勢が必要である。保健福祉領域の作業療法を体験し、地域での作業療法士の役割について口頭及び書面で報告すること、作業療法士を目指す学生としての基本的態度をとること

- ・新型コロナウイルス感染症の状況によっては、授業計画や評価方法等を変更する可能性がある。

成績評価

実習内容40%、事前・事後学習、個人情報取り扱い、体験記録、レポートと報告 60%

テキスト

参考図書、その他

実習もしくは実技/実習、実技、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション

作業療法見学実習

講師名

巽絵理 長辻永喜 大松慶子 湯川喜裕 吉田一平 西尾恵
(全員実務経験者)

学年 1 年 学期 前期 時間 45 時間 必修 1 単位

講義目標

1.実習施設における作業療法士の業務の流れを説明できる。 2.実習施設における作業療法の過程を説明できる。 3.職員や作業療法対象者に対し、礼節のある言葉遣いや態度をとることができる。 4.作業療法場面について指導者の説明を聞き、聞いたとおりに記録および説明ができる。 5.見学できた作業療法場面に関する疑問、感想を述べる事ができる。 6.施設を利用する対象者に対する関心を持ち、積極的に関わることができる。 7.実習指導者・引率教員に必要な報告、連絡、相談を自ら行える。

授業計画

- 1.実習オリエンテーション 実習内容の理解
 - 2.実習プレセミナー 見学実習に必要な知識・技能・基本的態度を評価する
 - 3.臨床実習1日目
 - 4.臨床実習2日目
 - 5.臨床実習3日目
 - 6.臨床実習4日目
 - 7.実習ポストセミナー 実習の振り返り
 - 8.実習ポストセミナー 実習報告 見学実習後の知識・技能・態度を評価する
-

履修上の注意

実習並びに学内セミナーは全日出席を原則とし、理由なき欠席や遅刻・早退は単位を認定しない。施設での実習期間のみならず、学内セミナーも実習期間である。自らの発表のみならず、他学生の発表からも学ぶ姿勢が必要である。 作業療法士を目指す学生としての基本的態度をとること ・新型コロナウイルス感染症の状況によっては、授業計画や評価方法等を変更する可能性がある。

成績評価

実習内容40%.事前・事後学習、個人情報取り扱い、体験記録、レポートと報告 60%

テキスト

なし

参考図書、その他

PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版
補訂版 才藤 栄一(監修) 金原出版株式会社 5500 PT・OTのための臨床技能
とOSCE 機能障害・能力低下への介入編 才藤 栄一(監修) 金原出版株式会社
5500

実習もしくは実技/実習、実技、グループワーク、ディス
カッション、プレゼンテーション

作業療法体験実習

講師名

巽絵理 長辻永喜 大松慶子 湯川喜裕 吉田一平 西尾恵
(全員実務経験者)

学年 2 年 学期 前期 時間 135 時間 必修 2 単位

講義目標

1.施設の概要を説明できる。 2.実習施設における作業療法過程を説明できる。 3.実習施設の作業療法対象者の特徴を説明できる。 4.職業人としての常識的態度をとることができる。 5.見学および体験できた作業療法場面について指導者の説明を聞き、記録できる。 6.見学および体験できた作業療法場面に関する疑問、感想を述べることができる。 7.施設を利用する作業療法対象者に関心を持ち、積極的に関わることができる。 8.他部門（他職種）の業務内容に関心を持つ。 9.実習指導者に必要な報告・連絡・相談を自ら行える。 10.臨床実習指導者の指導・監督のもと、様々な技能を体験することができる。 11.臨床実習指導者の指導・監督のもと、対象者に見学、面接、検査測定の実施の許可を得ることができる。 12.臨床実習の体験を通じて、作業療法士に必要な知識や態度、臨床思考過程で、今後自分が学習すべき事項を具体的に述べるることができる。

授業計画

- 1.実習オリエンテーション 実習内容の理解
- 2.実習プレセミナー 体験実習に必要な知識・技能・基本的態度を評価する
- 3.臨床実習1日目
- 4.臨床実習2日目
- 5.臨床実習3日目
- 6.臨床実習4日目
- 7.実習ポストセミナー 実習の振り返り
- 8.実習ポストセミナー 実習報告 体験実習後の知識・技能・態度を評価する

履修上の注意

実習並びに学内セミナーは全日出席を原則とし、理由なき欠席や遅刻・早退は単位を認定しない。施設での実習期間のみならず、学内セミナーも実習期間である。自らの発表のみならず、他学生の発表からも学ぶ姿勢が必要である。授業計画に示されている1回目は「1コマ」のみという意味ではない。必要な時間数実施する。作業療法士を目指す学生としての基本的態度をとること。臨床現場において個人情報保護やリスク管理に十分注意し、実習施設で実施可能な範囲で作業療法診療場面、管理運営に積極的に取り組むこと。・新型コロナウイルス感染症の状況によっては、授業計画や評価方法等を変更する可能性がある。

成績評価

実習内容50%、事前・事後学習、個人情報の取り扱い、体験記録、レポートと報告 50%

テキスト

参考図書、その他

PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版
補訂版 才藤 栄一（監修） 金原出版株式会社 5500 PT・OTのための臨床技能
とOSCE 機能障害・能力低下への介入編 才藤 栄一（監修） 金原出版株式会社
5500

実習もしくは実技/実習、実技、グループワーク、ディス
カッション、プレゼンテーション

作業療法評価実習

講師名

巽絵理 長辻永喜 大松慶子 湯川喜裕 吉田一平 西尾恵
(全員実務経験者)

学年 3 年 学期 前期 時間 180 時間 必修 4 単位

講義目標

1.臨床実習指導者の指導・監督のもと、対象者に見学、面接、検査測定の実施の許可を得ることができる 2.臨床実習指導者の指導・監督のもと、様々な評価技能を実施することができる。 3.作業療法過程における初期評価から作業療法実施計画立案までを臨床実習指導者の指導・監督のもと模倣できる。 4.見学および実施した評価結果を大きな誤りなく記録することができる。 5.臨床実習指導者から教授された臨床思考を大きな誤りなく理解することができる。 6.臨床実習の体験を通じて、作業療法士に必要な知識や態度、臨床思考過程で、今後自分が学習すべき事項を具体的に述べるができる。

授業計画

- 1.実習オリエンテーション 実習内容の理解
- 2.実習プレセミナー 評価実習に必要な知識・技能・基本的態度を評価する プレテストを実施する。
- 3.実習1週目
- 4.実習2週目
- 5.実習3週目
- 6.実習4週目
- 7.実習ポストセミナー 実習の振り返り
- 8.実習ポストセミナー 実習報告 実習後の知識・技能・態度を評価する ポストテストを行う。

履修上の注意

実習並びに学内セミナーは全日出席を原則とし、理由なき欠席や遅刻・早退は単位を認定しない。施設での実習期間のみならず、学内セミナーも実習期間である。自らの発表のみならず、他学生の発表からも学ぶ姿勢が必要である。授業計画に示されている1回目は「1コマ」のみという意味ではない。必要な時間数実施する 作業療法士を目指す学生としての基本的態度をとること。臨床現場において個人情報保護やリスク管理に十分注意し、実習施設で実施可能な範囲で作業療法診療場面、管理運営に積極的に取り組むこと ・新型コロナウイルス感染症の状況によっては、授業計画や評価方法等を変更する可能性がある。

成績評価

・実習内容60% 実習プレ・ポストセミナー、個人情報の取り扱い、体験記録、レポートと報告40% 実習状況だけではなく、実習プレ・ポストセミナーに積極的に取り組み、実習状況並びに実習プレ・ポストセミナーでの取り組み状況、提出物の内容を総合して評価する。なお、実習科目であることから実習並びに実習プレ・ポストセミナーは全日出席を原則とし、理由なき欠席や遅刻・早退は単位認定しない。基準 ・作業療法場面からの評価計画を立案し、模倣レベルで実施ができ、その内容を口頭および書面で報告できれば合格 ・作業療法士を目指す学生として基本的態度を実施レベルでとることが出来れば合格

テキスト

なし

参考図書、その他

PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版 補訂版 才藤 栄一(監修) 金原出版株式会社 5500 PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編 才藤 栄一(監修) 金原出版株式会社 5500 その他、今までの授業で使用した教科書

実習もしくは実技/実習、実技、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション

作業療法総合臨床実習

講師名 巽絵理 長辻永喜 大松慶子 湯川喜裕 吉田一平 西尾恵
(全員実務経験者)

学年 4 年 学期 前期 時間 720 時間 必修 16 単位

講義目標

以下の項目が臨床実習指導者の指導・監督のもと、実施できる。
1.職業人としての基本的態度を身につける 2.対象者の評価計画を立てる
3.情報収集・面接・観察・検査測定 4.評価結果を整理し全体像を把握する
5.目標を設定する 6.治療プログラムを立てる
7.治療環境を設定する 8.治療プログラムを遂行する
9.リスク管理について理解する 10.記録文書の管理を適切に行う
11.他部門との連携がとれる 12.施設の特徴について理解できる

授業計画

1.実習オリエンテーション 実習内容の理解
2.実習プレセミナー、客観的臨床能力試験（OSCE）、総合臨床実習に必要な知識・技能・基本的態度を評価する
3.実習1週目
4.実習2週目
5.実習3週目
6.実習4週目
7.実習5週目
8.実習6週目
9.実習7週目
10.実習8週目
11.実習ポストセミナー 実習の振り返り、実習報告、実習後の客観的臨床能力試験（OSCE）で実習による成長を確認する

履修上の注意

実習並びに学内セミナーは全日出席を原則とし、理由なき欠席や遅刻・早退は単位を認定しない。施設での実習期間のみならず、学内セミナーも実習期間である。自らの発表のみならず、他学生の発表からも学ぶ姿勢が必要である。授業計画に示されている1回目は「1コマ」のみという意味ではない。必要な時間数実施する作業療法士を目指す学生としての基本的態度をとること。臨床現場において個人情報保護やリスク管理に十分注意し、実習施設で実施可能な範囲で作業療法診療場面、管理運営に積極的に取り組むこと

成績評価

実習内容50% 学内での実習プレ・ポストセミナーでの評価、個人情報の取り扱い、体験記録、レポートと報告50%
実習状況だけでなく、実習プレ・ポストセミナーに積極的に取り組み、実習状況並びに実習プレ・ポストセミナーでの取り組み状況、提出物の内容を総合して評価する。

テキスト

PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版 補訂版 才藤栄一（監修） 金原出版株式会社 5500
その他、今までの授業で使用した教科書

参考図書、その他

OT臨床実習ルートマップ改訂第2版
メジカルビュー社

実習もしくは実技／実習、実技、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション
